

子供の手



ジャーナリスト・学習院大学法学部特別客員教授 岩田 公雄

テレビ局の記者として在職中40を超える国取材で訪れる機会があった。取材の対象は中国の天安門事件、北朝鮮、中東パレスチナ、部族対立の果てのルワンダの大虐殺現場、米国の同時多発テロなど緊張感に包まれるものが多かった。支局長を務めたフィリピンの取材では、貧困飢餓の中で亡くなった乳児を抱く母親を前に世の不条理に身体の震えが止まらなかった。

しかし逆に子どもたちの笑顔に救われたことも何度もあった。私の180センチで90キロを超える体躯が安心感を与えたのか、取材先で多くの子どもたちの笑顔に接した。ルワンダ内戦から逃れた難民が暮らすキャンプを訪れた時だった。難民キャンプには衛生状態の悪化からチフス、コレラが発生し死者も多数出ている。私は感染症の恐怖に襲われながら身構える表情でキャンプ内を取材して回っていた。ふと気づくと私の手の指が黒人の幼児たちの手で10本とも握られていた。見回すと男の子、女の子いずれもが円らな瞳をさらに大きくして笑って私に付いて来ていた。私は内心複雑な気持ちに襲われていた。何故なら子どもたちも感染症の保菌者かも知れないのだ。でも円らな瞳を前に私はその指を振り解くことが出来ず、戸惑いながら取材を進めた。そして取材を終えキャンプを離れる車の中で、急いで日本から持参した滅菌ガーゼで手を拭いた。後ろを振り返ると子どもたちが満面の笑顔で我々の車に手を振ってくれていた。後で知ったことだが、あの子どもたちの多くは両親を失った孤児だった。大人の温もりへの思いが私の指を握らせたようだ。

一方で、取材後に子どもたちに無視？されたことがあった。それはパキスタン国境のアフガン難民キャンプを訪れた時だった。国境周辺にはアフガン

紛争から逃れた家族たちのキャンプがあった。国連機関などからの支援は、1日当たり、燃料と石鹼そして小麦粉と食用油等と生きるための最低限の支給だった。このキャンプでも取材していた私を、多くの子どもたちが困っていた。そして取材を一通り終え現場を離れようと車に向かっていた私に、子どもたちの一人がはにかみながら手を突き出し何かをくれないかとの仕草をしてきた。私は、それまで笑顔で付いて来た子どもたちがチップでも要求しているのかと最初は誤解した。だがそのジェスチャーは、実は私が持っていたボールペンとノートを買いたいと言う仕草だとようやく気づいた。案内者に聞けばキャンプには正式な学校はなく、当然教科書も文房具もほとんどなくサッカーボールの一個も無いとの事だった。援助は生活必需品が手一杯で子どもたちにまでは及ばない現実に関心が重くなった。私は何本かの筆記具と使いかけのノートを子どもたちに渡しキャンプを離れる事にした。そして車内から後方を振り返ると子どもたちは車座になって私が渡したペンを握りノートに絵か文字かを描く事に熱中しており、私に関心を持つ子は一人も居なかった。

少子高齢化に向かう日本にとって幼児教育の現場を預かる皆様方も多くの課題に直面している事は間違いない。しかし日本の子どもたちが平和で豊かな環境の中で育っている事は揺るがない事実だ。あの悲劇的出来事があったルワンダは生き残った子どもたちの教育に力を注ぎ、今では「アフリカの奇跡」と呼ばれるほど国の再建を果たしている。

私は、皆さんの育む子どもたちの中から様々な出来事に想いを馳せ国の内外に貢献する若者が数多く巣立つ事を心から願っている。まさに教育は国家の未来を築く柱なのだ。

平成 27 年度事業計画案、収支予算案を議決

3月6日、東京・私学会館において、全日私幼連の団体長会・理事会合同会議が開かれ58名が出席しました。定足数確認後、会議の成立を確認し、議長に濱名浩理事（兵庫）と岡本壯二理事（岡山）が選出され、議事録署名人には武田正廣理事（秋田）と宮地彌典理事（高知）が選任され議事に入りました。

■報告案件1：子ども・子育て支援新制度について／坪井久也政策委員長より、子ども・子育て支援新制度についての9部に及ぶ資料について説明がありました。

■報告案件2：会務運営報告について／総務委員会からは、「全日本私立幼稚園連合会の組織強化について（答申）」をもとに提言の内容説明がありました。政策委員会からは、「全日私幼連の幼稚園制度について（答申）」を踏まえ、平成27年度の委員会でも引き続き活動を継続していくことの報告がありました。教育研究委員会からは今後予定される公開保育コーディネーター養成講座開催についての説明、また園長研修の企画案について説明がありました。

経営研究委員会からは、現在課税対象である給食費とスクールバス代の消費税の取り扱いを非課税で扱えるように要望している旨の報告がありました。また、通園バスの安全性について、幼児専用車という性質上、シートベルトやチャイルドシート等特例をもって運行できている現状を考えると、今後も各園、良識ある判断で、子どもたちの安全がはかられるよう運行して欲しい旨の説明がありました。

広報委員会からは、平成27年度PTAしんぶん賛助会員の加入促進について。また、私立幼稚園3団体（全日私幼連、（公財）全日私幼研究機構、全



日私幼P連)のホームページの運営をまとめた「私立幼稚園.com」についての報告。そして、第6回ようちえん絵本大賞の報告がありました。102条園委員会からは、新制度の研修会の予定について、認定こども園委員会からは、公定価格からみた職員配置の報告と今後の研修会予定について説明がありました。こどもがまんなかPROJECTからは、グリーティングカードの活用方法について説明がありました。

■審議案件1：平成26年度補正予算案について／田中辰実総務委員長から平成26年度補正予算案について資料をもとに説明があり、満場一致で議決されました。

■審議案件2：平成27年度事業計画案について／各委員会委員長・プロジェクト座長から資料をもとに説明があり、満場一致で議決されました。

■審議案件3：平成27年度組織強化費について／田中総務委員長から資料をもとに平成27年度組織強化費について説明があり、満場一致で議決されました。

■審議案件4：平成27年度収支予算案について／田中総務委員長から平成27年度収支予算案について資料をもとに説明があり、満場一致で議決されました。

■協議案件：全日私幼連会則施行細則改正案につい

て／田中総務委員長から全日私幼連会則施行細則改正案について資料をもとに説明があり、協議が行われました。予定時刻をオーバーするほど、活発な協議がなされ、会を締めくくりました。

(調査広報委員会編集委員・光安則子)

全日本私立幼稚園連合会

平成27年度 事業計画(案)

「子ども・子育て支援新制度」(以下、「新制度」という。)は、これから解決すべき課題を含みながらも、本年4月から施行されます。

全国8,000の私立幼稚園は、認定こども園あるいは幼稚園として、それぞれの機能を生かしながら、子どもの最善の利益を目指して幼児期の教育・保育の充実に努めてまいります。

今こそ、先人達が築き上げてこられた私立幼稚園の意義・役割を改めて自覚し、質の高い教育・保育を実現していくことが求められています。

幸いにして、平成27年度の私立幼稚園関係予算については、私立学校等経常費補助の幼稚園分が園児数減少の中で園児一人当たりの単価等が地方交付税と併せて大幅アップ、預かり保育推進事業及び幼稚園特別支援教育経費についても大幅な増額を確保することができました。

一方、「新制度」の理念・目的に即した事業の展開、公私幼保間における保護者の保育料負担の格差是正、地域区分による隣接市町村との格差是正による公平・公正・平等な枠組みの構築、新制度への移行時期等々、課題も山積しており、今後とも、政府や関係省庁への折衝を粘り強く行っていく所存です。

また、幼児教育無償化に関しては、「経済財政運営と改革の基本方針(骨太方針)2014」に盛り込まれ、今後も、『幼児教育を深化・充実させることで向上心にあふれる心豊かな子どもを育て、そのことが健全で安定した社会を創り上げていく素地になる』との基本的な考えに立って、将来の国益に繋がる国家戦略の一環として幼児教育への重点的な投資をお願いすべく「幼児教育の無償化の実現」を求め

ていきたいと考えます。

全日私幼連では、こうしたことを基本的な考え方として、国や関係当局への要望活動・折衝を積極的に行ってまいります。併せて、一昨年度に取組みを始めたコーディネーター養成講座を生かし、学校評価への取組みの充実を図り、教育・保育の質の向上、学校力の向上を図ることで、保護者や地域の信頼に添えていきたいものです。

このため、本連合会としては、以下の点を本年度の活動の重点項目として掲げます。

- ・全日私幼連においては、さらなる組織強化を図り、当面する喫緊の課題並びに中・長期の課題に迅速かつ的確に対応していく。
- ・「新制度」については、国として幼児教育の重要性・意義等の基本理念を明確に示し、市町村と国・都道府県等が一体となって幼児教育の振興に取り組む体制を確実に整備するとともに、課題を明確にして政府や関係当局に強く要請していく。
- ・幼児教育無償化の実現に向けて、政府や関係当局との折衝を積み重ねていく。
- ・学校評価を有効活用しながら教育・保育の質の向上、学校力の向上に努め、地域及び保護者の信頼に添えていく。
- ・ノーマライゼーション、インクルージョンの観点から、幼稚園における特別支援教育の充実に努める。
- ・「こどもがまんなか」の観点から、ワーク・ライフ・バランスの推進による「家族で過ごす時間」「地域で過ごす時間」の確保を図る施策の充実に努める。
- ・自然災害からの復興を目指す地域住民や子どもたちへの支援に努めるとともに、命を大切にする教育の推進に努める。

なお、会務の運営に当たっては、広く会員の意見を踏まえ、開かれた運営に努めるとともに、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構等との連携の強化を図りながら、私立幼稚園の充実・発展をめざし鋭意努力していく所存です。

※ 組織強化検討会議の答申を踏まえた検討を行う。

= 政策委員会 =

【具体的活動内容】

1. 私立幼稚園の振興に関する事項
 - (1) 幼児教育振興法の制定に向けた活動に関する事項 ※
 - (2) 公費助成・補助に関する事項
 - (3) 地方自治体(都道府県・市区町村)における諸政策に関する事項
 - (4) ワーク・ライフ・バランス等の少子社会対策の諸政策に関する事項
 - (5) 関係省庁との協議・連絡に関する事項
 - (6) 議員連盟等との協議に関する事項
2. 関係団体、組織に関する事項
 - (1) 全私学連合における諸活動に関する事項
 - (2) 全日本私立幼稚園PTA連合会に関する事項
3. 事業ならびに活動に関する事項
 - (1) 政府予算獲得運動(現行制度・新制度)に関する事項
 - (2) 国と地方の「子ども・子育て会議」に関する事項
 - (3) 国における審議会等各種委員会の情報収集等に関する事項

= 総務委員会 =

【具体的活動内容】

1. 会務の総括に関する事項
2. 予算・決算および会計その他財務全般に関する事項
3. 組織の機能強化に関する事項 ※
4. 各種会議に関する事項
5. 会費、会則等に関する事項 ※
6. 各種公文書に関する事項
7. JK保険の加入促進
8. 表彰に関する事項
9. 震災復興に関する事項
10. 国際交流事業に関する事項
11. 事務局に関する事項
12. 全日私幼連要覧の作成・発行
13. 災害積立基金に関する事項
14. (公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構との連携、調整等に関する事項
15. 他の委員会の所管に属さない事項

今こそ学びたい、保育の大切なこと

L24200

保育が織りなす豊かな世界

— 震災を越えて生きる・遊ぶ・育ち合う —

天野珠路



B6上製判 定価: 本体 1,200円(税別)

震災は記憶から消したい出来事でした。しかしこれからのことを考えると、特に子どもの命を預かる保育者には忘れてはいけない教訓を残しました。当時の保育現場ルボからそれを読み取れる他、保育の素晴らしさが一杯の書。

著/天野珠路

L24100

保育の楽しみ方がわかる本

子どもの(気づき)を保育現場の学びから

森川 紅



B6上製判 定価: 本体 1,200円(税別)

保育は素晴らしい! この本には、そう感じずにはおれない、たくさんの保育事例が紹介されています。読みやすい現場の言葉で短い事例です。そこには子どもの「気づき」を大切にしそれに共感する姿があります。若手保育者必読の書!

著/森川 紅



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
 支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

- (4) 設置者・園長全国研修大会分科会の運営に関する事項
- (5) 「幼児教育振興アクションプログラム」に関する事項
- (6) 「次世代育成支援対策推進法」に関する事項

【当期重点課題】

- (1) 幼稚園教育を中心とする幼児教育の無償化に関する事項
- (2) 子ども・子育て支援新制度の問題点の抽出および対応策の提示に関する事項
- (3) 中央教育審議会の動向に関する事項
- (4) 地方分権推進に対応する都道府県政策担当者会議の企画・実施
- (5) 処遇改善に向けての予算確保に関する事項

※ 幼稚園制度検討会議の答申を踏まえた検討を（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構と連携して行う。

= 教育研究委員会 =

【具体的活動内容】

教育研究委員会の事業は、（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・研究研修委員会において実施しているため、（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の平成 27 年度事業計画書に記載。

※ 幼稚園制度検討会議の答申を踏まえた検討を行う。

= 経営研究委員会 =

【具体的活動内容】

1. 第 31 回設置者・園長全国研修大会（岩手県・盛岡市）の企画実施
2. 私立幼稚園の経営実態調査の実施と報告
3. 幼稚園教育を中心とする幼児教育の無償化への対応
4. 子ども・子育て支援新制度に関する事項
5. 後継者育成研修会の開催
6. 人材確保に関する事項
7. その他、経営に関する事案に適宜対応する

= 広報委員会 =

【具体的活動内容】

広報委員会の事業は、（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・調査広報委員会において実施しているため、（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の平成 27 年度事業計画書に記載。

※ 幼稚園制度検討会議の答申を踏まえた検討を行う。

= 102条園委員会 =

【具体的活動内容】

1. 102条園振興助成対策と恒久的補助策の推

理事長・園長・副園長・主任…保育現場をマネジメントするすべての保育者のために

園の未来をデザインする 保育ナビ

5月号の主な内容

特集 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を保育に活かすには

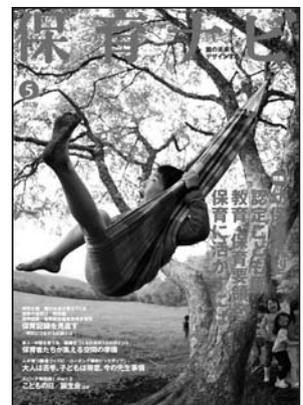
- 国の動きを読む！ 研究者の目 2015
平成27年度予算を巡って
- 人が育つ職場づくりに コーチング事例ピックアップ！
大人は苦手、子どもは得意。今の先生事情
- スピーチ実践術！ Part2
こどもの日／誕生会 ほか

月刊保育雑誌

定価：本体価格926円＋税
B5判 72ページ

・人材育成の連載が充実！
・特集記事、連載記事の連動企画が
Webで読めます！
「保育ナビ」で検索！

※表紙・内容は変更の場合があります。



2015年度の表紙は倉橋想三の言葉に合わせて選んでいます。ぜひ本誌をご覧ください。

ISBN978-4-577-81375-1 745

ご注文・定期購読のお申し込みは下記まで
03-5395-6608 営業推進部

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <http://www.froebel-kan.co.jp>

キンダーブックの
フーベル館

進

2. 子ども・子育て支援新制度に関する事項
3. 幼稚園教育を中心とする幼児教育の無償化について
4. 各地区会、各都道府県団体との情報交換と補助のあり方について
5. 税制等の102条園特有の問題に関する調査研究
6. 地区会別研修会の企画実施
7. その他、102条園に関する事項

= 認定こども園委員会 =

【具体的活動内容】

1. 認定こども園に関する情報の収集と発信に関する事項
2. 幼稚園教育を中心とする幼児教育の無償化への対応
3. 子ども・子育て支援新制度に関する事項
4. 各地区・各都道府県団体との情報交換のあり方に関する事項
5. 研修会の企画・実施に関する事項
6. 政策委員会と連携した政府予算対策運動に関する事項
7. 政策委員会と連携した関係省庁との協議・連絡に関する事項

= こどもがまんなかPROJECT企画推進会議 =

【具体的活動内容】

1. プロジェクト企画推進事業
 - (1) こどもの権利（「子どもの権利条約」小冊子の普及）
 - (2) 日本文化、地域文化、各国文化の学び・継承（日本の風土に基づいた催事、食文化の学び、親子のコミュニケーションの活性化、世界とこどもを結ぶ活動）
 - (3) こどもがまんなか生活（都道府県の私立幼稚園団体と連携・協力したイベントを開催）
 - (4) 社会への普及啓発活動（マスメディアへの広報活動、サポーターシップ活動、個人や企業の募金、各幼稚園等の募金）
 - (5) 連携・共有（各都道府県の私立幼稚園団体と連携した活動、『私幼時報』『PTAしんぶん』による広報活動）
 - (6) こどもと家族の健康（子どもと家族が健康で快適であるために生活づくりを応援する情報発信）
 - (7) 共生・国際的支援活動（「東日本大震災支援活動」、「みんなのゆめをつなごう・シードペーパー」の普及、国際貢献活動）
 - (8) その他
2. プロジェクト普及啓発事業
 - (1) 協賛・後援団体（企業）の募集について
 - (2) 各地区並びに各都道府県私幼団体との協力事業についての検討
 - (3) その他



**バス専用機不要！
スマホで簡単バス運行管理！**

くるんとバス

-通園バス位置情報システム-

「くるんとバス」はスマートフォン・タブレットのGPS機能を活用したシステムで、バスの運行情報や到着メール・ルート作成等を提供するクラウド型サービスです。

いつもNAVI
「いつもNAVI」動態管理サービスfor送迎バス（くるんとバス®）は、株式会社ゼンリンデータコム登録商標です。

株式会社 **チャイルド社** インターネット課
TEL.03-5370-7497 〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-37-15
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>

全日本私立幼稚園連合会
平成27年度・一般会計収支予算書(案)
平成27年4月1日～平成28年3月31日

(単位:円)

科 目	平成27年度予算額A	平成26年度予算額B	(A-B)	備 考
事業活動収支の部				
① 事業活動収入の部				
1 基本財産運用収入	30,000	30,000	0	
基本財産運用収入	30,000	30,000	0	基本積立金・大河内・由田利息
2 特定資産運用収入	50,000	50,000	0	
特定資産運用収入	50,000	50,000	0	国際交流・財政運用・退職給付・災害金利息
3 受取会費収入	175,991,900	176,638,900	△ 647,000	
一般会費	175,991,900	176,638,900	△ 647,000	(会費1園12,000円+園児70円×平均園児数) 加盟園数
4 事業収入	15,400,000	16,150,000	△ 750,000	
設置者・園長研修会	9,000,000	9,400,000	△ 400,000	研修会参加費
保険事務手数料	6,400,000	6,750,000	△ 350,000	
5 受取補助金等収入	16,800,000	16,803,000	△ 3,000	
団体研究助成金	16,800,000	16,803,000	△ 3,000	私学研修福祉会
6 受取寄付金収入	6,300,000	6,300,000	0	
寄付金収入	6,300,000	6,300,000	0	JK保険広告料
7 受取雑収入	830,000	1,630,000	△ 800,000	
受取利息	30,000	30,000	0	
その他	800,000	1,600,000	△ 800,000	
8 他会計からの繰入収入	0	0	0	
9 財政運用積立預金取崩収入	20,000,000	0	20,000,000	
10 退職給付引当預金取崩収入	500,000	500,000	0	
11 災害積立預金取崩収入	3,000,000	3,000,000	0	
事業活動収入計	238,901,900	221,101,900	17,800,000	
② 事業活動支出の部				
1 事業費支出	171,800,000	217,373,000	△ 45,573,000	
①総務関係事業費	72,050,000	78,970,000	△ 6,920,000	
総会	7,000,000	7,440,000	△ 440,000	会議費・旅費
理事会	9,000,000	9,500,000	△ 500,000	会議費・旅費
常任理事会	7,000,000	7,000,000	0	会議費・旅費
団团长会	2,500,000	2,500,000	0	会議費・旅費
監事会	500,000	440,000	60,000	会議費・旅費
総務委員会	2,300,000	2,300,000	0	会議費・旅費
諸会議費	8,000,000	10,000,000	△ 2,000,000	会議費・旅費
全私連	1,100,000	1,010,000	90,000	分担金・全私学連合
国際交流事業	100,000	100,000	0	OMEF分担金等
全審連	250,000	230,000	20,000	分担金・全国私立学校審議会連合会
表彰事業	2,800,000	2,620,000	180,000	勤続表彰
出張費	2,000,000	2,000,000	0	旅費等
渉外費	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000	慶弔費等
要覧事業	1,500,000	1,500,000	0	作成費・印刷費
地区活動事業	15,900,000	15,820,000	80,000	各地区に対する活動金
奨励事業	6,400,000	6,750,000	△ 350,000	各都道府県に対する奨励金
組織強化費	4,700,000	7,760,000	△ 3,060,000	各都道府県に対する強化金
②政策関係事業	55,300,000	95,380,000	△ 40,080,000	
政策委員会	2,300,000	2,300,000	0	会議費・旅費
都道府県政策担当者会議	3,000,000	3,080,000	△ 80,000	会場費等
予算対策費	20,000,000	28,000,000	△ 8,000,000	
政策推進費	20,000,000	28,000,000	△ 8,000,000	
無償化・3法対応	10,000,000	34,000,000	△ 24,000,000	
③教育研究関係事業	100,000	60,000	40,000	
教育研究委員会	100,000	60,000	40,000	会議費・旅費
④経営研究関係事業	15,600,000	14,940,000	660,000	
経営研究委員会	2,300,000	2,300,000	0	会議費・旅費
設置者・園長研修会	10,000,000	10,040,000	△ 40,000	会場費等
後継者育成研修会	1,000,000	1,000,000	0	会場費・旅費
経営実態調査	2,300,000	1,600,000	700,000	調査費・印刷費
⑤広報関係事業	4,200,000	3,760,000	440,000	
広報委員会	100,000	60,000	40,000	会議費・旅費
会報等発行事業	3,100,000	3,000,000	100,000	(公財) 全日私幼研機構への繰入等
インターネット事業	1,000,000	700,000	300,000	ホームページの更新
⑥102系園関係事業	2,300,000	2,010,000	290,000	
102系園委員会	1,300,000	1,300,000	0	会議費・旅費
都道府県代表者会議	1,000,000	710,000	290,000	会場費等
⑦認定こども園関係事業	2,000,000	2,000,000	0	
認定こども園委員会	2,000,000	2,000,000	0	会議費・旅費
⑧団体教育研究関係事業	17,250,000	17,253,000	△ 3,000	
地区別教育研究会	16,800,000	16,803,000	△ 3,000	助成金・(公財) 全日私幼研機構
全日私幼連負担分	450,000	450,000	0	記念品代
⑨災害費関係事業	3,000,000	3,000,000	0	
災害費	3,000,000	3,000,000	0	見舞金等
2 管理費支出	38,300,000	34,620,000	3,680,000	
給料	20,000,000	18,000,000	2,000,000	
退職金	500,000	500,000	0	
福利厚生費	3,200,000	3,000,000	200,000	
事務所費	2,000,000	2,000,000	0	共益費・水道光熱費等
印刷費	400,000	400,000	0	
消耗品費	2,200,000	1,600,000	600,000	
賃借料	2,000,000	2,000,000	0	印刷機等リース代
通信費	1,700,000	1,500,000	200,000	各種通信費・発送費
交通費	500,000	500,000	0	都内交通費等
租税公課費	2,000,000	1,800,000	200,000	事業税・消費税等
支払手数料	300,000	200,000	100,000	振込手数料等
備品費	500,000	570,000	△ 70,000	
顧問料	2,500,000	2,500,000	0	弁護士・会計士・社労士
雑費	500,000	50,000	450,000	
3 他会計への繰出支出	1,000,000	0	1,000,000	
こどもがまんなかPROJECTへ繰出支出	1,000,000	0	1,000,000	
4 特定預金繰入支出	6,300,000	970,000	5,330,000	
財政運用積立預金繰入支出	5,000,000	0	5,000,000	
退職給付引当預金繰入支出	800,000	970,000	△ 170,000	
災害積立預金繰入支出	500,000	0	500,000	
5 予備費支出	1,501,900	1,648,900	△ 147,000	
事業活動支出計	218,901,900	254,611,900	△ 35,710,000	
事業活動収支差額	20,000,000	△ 33,510,000	53,510,000	
当期収支差額	20,000,000	△ 33,510,000	53,510,000	
前期繰越収支差額	9,689,034	43,199,034	△ 33,510,000	
次期繰越収支差額	29,689,034	9,689,034	20,000,000	

※平成26年度予算は第一次補正予算額

平成27年度 事業計画・収支予算を議決

★3・2第5回理事会

3月2日、(公財)全日私幼研究機構の第5回理事会在東京・私学会館で開催され、理事16名が出席しました。田中雅道理事長が議長となり、議事録署名人は、満場一致をもって亀ヶ谷忠宏理事、園尾憲一理事を選任しました。

○決議案件

1、平成27年度事業計画の承認の件

議長、安家周一副理事長と四ツ釜雅彦調査広報委員長より、平成27年度事業計画について説明があり、定款第7条第1項の規定に基づき一同に諮ったところ、満場一致をもって決議されました。

2、平成27年度収支予算の承認の件

議長、坂本洋専務理事より、平成27年度収支予算について説明があり、審議の結果、定款第7条第1項の規定に基づき一同に諮ったところ、満場一致をもって決議されました。

3、定時評議員会開催(3月27日)の件

議長より、評議員会開催についての説明があり、定款第17条第1項の規定に基づき一同に諮ったところ、原案通り満場一致をもって決議されました。

4、賛助会員入会の件

議長より、(株)タナベ経営、(株)リトルママ、(株)ロッテの賛助会員新規入会申し込みの説明があり、会員に関する規定第4条第2項の規定に基づき一同に諮ったところ、満場一致をもって入会が決議されました。

○報告案件

1、理事長からの執行報告について



理事長より、自己評価及び学校関係者評価についてさらなる充実、質の向上を図っていききたい旨の報告がありました。次に、今後の課題として第三者評価については、本財団として公開保育を中心に質の向上につながる制度を作っていきたい旨の報告がありました。また昨年採用した職員が、試用期間が終了し今後、正規職員として業務にあたっていく旨の報告がありました。

2、第6回幼児教育実践学会の開催について

安家副理事長より、平成27年度は、福島県郡山市において開催する旨の説明報告がなされました。

3、賛助会員(旧PTAしんぶん友の会)について

四ツ釜調査広報委員長より、平成26年度の申込み数の報告がありました。平成27年度では、さらに申込み数を増やしていく努力を行っていききたい旨の説明報告がなされ、現在、4月号の全園児発送の準備を行っている旨の報告がありました。

4、平成26年度 地区別研修会助成金配分案につ

いて

田中理事長より、平成 26 年度地区別研修会助成金配分案について説明報告がなされました。

5、ホームページのリニューアルについて

四ツ釜調査広報委員長より、ホームページのリニューアルについて説明報告がなされました。

★ 3・27 第 4 回評議員会

3 月 27 日、(公財) 全日私幼研究機構の第 4 回評議員会が東京・私学会館で開催され、評議員 13

名が出席しました。

田中雅道理事長のあいさつの後、出席した評議員の互選により、中邑隆哉評議員を議長に選任。議事録署名人に上田京介評議員、高木薫子評議員を選任しました。

○報告案件

報告案件では、「平成 27 年度事業計画の件」「平成 27 年度収支予算の件」「賛助会員入会の件」などについて説明が行われ、理事会における審議の概要報告もなされました。

公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 平成 27 年度事業計画書

本財団では、幼児期における子どもの豊かな育ちについて研究を深めるとともに幼児教育にかかわる者を支援し、幼児教育の発展並びに家庭・地域における教育力の向上に寄与することを目指して、今年度、以下の事業に取り組みます。

1、幼児教育にかかわる者の資質向上に関する事業

(1) 平成 28・29 年度「教育研究課題」の検討・作成ならびに研修俯瞰図の改訂

平成 28・29 年度「教育研究課題」の検討・作成を行う。あわせて「保育者としての資質向上研修俯瞰図」の内容について改訂・周知を行う。

(2) 幼稚園・認定こども園における学校評価の完全実施に向けた事業の企画・検討

- ・公開保育コーディネーター（第三者評価者）養成講座の企画・実施。
- ・公開保育コーディネーター（第三者評価者）フォローアップ研修の企画・実施。

(3) 免許状更新講習等についての企画・検討

- ・各都道府県・地区において免許状更新講習の実施
- ・教育職員免許法施行規則等の一部改正により平成 28 年 4 月より新たに追加される「選択必修領域」について、必修領域のカリキュラムにつ



優れた芸術家の作品を、
子どもたちの生活環境へ。
見て、触れて、感じながら、
子どもたちの心は、
大きく羽を広げます。

「喜ぶ少女」

株式会社 ジャクエツ

www.jakuetsu.co.jp

いて検討を行い、都道府県への周知を行う。

(4) 「幼児教育実践学会」の実施

平成 27 年 8 月 18・19 日、福島県郡山市にて、第 6 回幼児教育実践学会を実施する。

(5) 全国研究研修の推進

①全国研究研修担当者会議の開催

各都道府県における教育研究担当者のための研修会を実施する。

②地区教育研修大会の実施

各地区において、地区教育研修大会を実施する。

③地方の教育研修体制のサポート

各地域における教育研修体制のサポートを行う。

④園長研修の企画・検討

園長研修の企画・検討を行い、カリキュラムの内容に沿ってパイロット的に研修を実施する。研修後に内容について検証を行う。

(6) 「研修ハンドブック」の活用周知・頒布

幼稚園・認定こども園における学校評価に伴い、各教員の研修履歴等が残せるよう「保育者としての資質向上研修俯瞰図」にもとづき、「研修ハンドブック」の周知・活用を図る。

(7) 優秀教員表彰者制度の実施

本財団「優秀教員表彰者制度」の施行に伴い、被表彰者の選定を行う。

(8) 「いのちを大切にす日」への取組み

- ・命の貴さに向き合うなかで命あることに感謝すると共に、3月11日の出来事に思いを寄せる日を制定し各地域・各園での取組みを奨励する。
- ・本財団で企画・制作した震災記録映像を用いた研修について検討を行う。

2、幼児教育に関する調査及び研究

(1) 乳幼児期の子育ち環境のあり方の研究

乳児も含めた小学校入学前の子どもの育ちにとって、本当に必要な環境とは何かについて研究を行う。また、幼稚園の環境として砂場に焦点を当て、遊びの中での行動や人間関係、言葉の発達などについて調査し、子どもの育ちの視覚化を行う。

(2) 幼児教育実践事例研究

各都道府県、各地区等で研究されている実践事例について、幼児教育実践学会において口頭発表ならびにポスター発表で研究発表を行い、その内容を私幼時報に掲載する。

(3) 5歳児が幼稚園にいることの意味を考える

「5歳児が最年長であるがゆえに育つこと」、についての実践研究にあたっては、仮説をたてて検討を行う。

(4) 幼稚園教育の改善・充実調査研究委託事業

幼稚園における喫緊の課題である「乳児の育ちと満3歳児保育の在り方」「預かり保育の課題と見直し」についての調査研究を公募・選考し委託事業を実施する。

(5) 幼稚園における特別支援教育の充実に関する調査研究

幼稚園における特別支援教育の充実に関し、関係機関と協力し個別の教育支援計画と指導計画の立案等について調査研究し、その周知に努める。

(6) 学校評価

私立幼稚園における保育の質の向上に寄与する学校評価のあり方について調査研究を進め、自己評価及び学校関係者評価の推進を図るとともに本財団が指向する公開保育を活用しての第三者評価のあり方について検討する。

(7) 東日本大震災への対応

東日本大震災で被災された私立幼稚園の復興への取組みを調査・記録し、研修に生かすと共に今後の教訓と復興に役立てたい。

3、家庭・地域における幼児期の教育力向上への支援と広報活動

(1) P T A しんぶんの発行

「子どものしあわせを願う親と先生のひろば」として発行してきた、全日私幼連 P T A しんぶんを引き続き発行する。年 11 回発行。4 月号は全園児に配布する。

(2) 賛助会員の加入促進

積極的に働きかけて、賛助会員の加入促進に努める。各都道府県団体で 50% の加入率を目標と

する。

(3) 私幼時報の発行

全国の私立幼稚園設置者・園長を対象に発行してきた私幼時報については、機関誌と位置づけ、発行を継続する。年12回、8,800部(1回あたり)発行の予定。

(4) ホームページを活用した広報活動

ホームページを活用して、幼児教育に携わる者、子育て中の保護者などに向けて、子育ての大切さや尊さを訴えていくとともに、幼児教育に関わる必要な情報提供の更なる充実を図る。

ホームページのリニューアルを実施し、利用者の便を図る。

(5) 調査の実施

幼児教育に関する調査を必要に応じて検討・実施し、情報把握ならびに広報啓発活動を行う。

(6) 幼児教育の発展に寄与する絵本の顕彰

幼児教育の発展に寄与する絵本を選定し、広報啓発活動を行うことにより、園や保護者の絵本選別に資する。

(7) こどもがまんなかPROJECT推進のための広報活動

PTAしんぶん、私幼時報またはホームページ等を通じて、こどもがまんなかPROJECT推進のための調査広報活動を行う。

4、幼児教育における国際交流等に関する事業

(1) 諸団体等と協力し、私立幼稚園教諭の国際交流、協力について研究を行う。

(2) 我が国における幼児教育の充実発展に寄与するため、文部科学省やOECD等の協力を得て海外における小学校入学前の子どもの教育事情について調査し、その紹介を行う。

5、本財団の組織・運営に関する事項

(1) 各都道府県団体との連携強化

PTA しんぶん ぜひご活用ください

「全日私幼連 PTA しんぶん」は「子どものしあわせを願う親と先生のひろば」としての役割を果たしています。

PTA しんぶんを希望される幼稚園は、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構までお問い合わせください。

☎ 03-3237-1957

(公財)全日本私幼研究機構・調査広報委員会

選ばれる園になるために
変革のビジョンと実践
22例

こども園への移行? 0・1・2歳児保育を導入? 保育の質の向上は?

選ばれる園になるために

～変革のビジョンと実践22例～

保育施設の未来がこの本に!

保育施設の“機能と質”を考える。
22園の変革ビジョンとプロセスを一挙公開。

私立幼稚園経営者懇談会・著
248ページ/税込4,320円
世界文化社刊/4061301

株式会社 世界文化社 ワンダー営業本部
TEL: 03-3262-5128 FAX: 03-3262-6121

(公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
収支予算書
平成27年4月1日～平成28年3月31日

(単位：円)

科目	当年度	前年度	差異	備考
I 事業活動収支の部				
事業活動収入の部				
1 基本財産等運用収入	(60,000)	(1,016,000)	(△ 956,000)	
基本財産運用収入	50,000	1,000,000	△ 950,000	
特定資産運用収入	10,000	16,000	△ 6,000	
2 会費収入	(74,000,000)	(72,500,000)	(1,500,000)	
正会員会費収入	3,000,000	3,000,000	0	
賛助会員会費収入	71,000,000	69,500,000	1,500,000	
3 事業収入	(75,000,000)	(71,500,000)	(3,500,000)	
全国研究研修担当者会議収入	2,500,000	1,500,000	1,000,000	
教員免許更新講習受講料収入	65,000,000	65,000,000	0	
調査研究事業収入	3,000,000	3,000,000	0	幼児教育の改善・充実のための実践的調査研究
幼児教育研究実践学会収入	4,500,000	2,000,000	2,500,000	参加費4,500円×参加者1,000人
4 補助金収入	(56,000,000)	(56,000,000)	(0)	
日宝協助成金等収入	40,000,000	40,000,000	0	
地区別研修会助成金収入	16,000,000	16,000,000	0	地区別教育研修会
5 寄付金収入	(160,000)	(30,000)	(130,000)	
寄付金収入	160,000	30,000	130,000	
6 雑収入	(6,520,000)	(5,084,000)	(1,436,000)	
受取利息収入	20,000	84,000	△ 64,000	
その他収入	6,500,000	5,000,000	1,500,000	私幼時報広告料
事業活動収入計	[211,740,000]	[206,130,000]	[5,610,000]	
事業活動支出の部				
1 事業費	(198,420,000)	(191,600,000)	(6,820,000)	
資質向上・調査研究事業支出	(41,000,000)	(38,700,000)	(2,300,000)	
地区別研修会助成	16,000,000	16,000,000	0	
全国研究研修担当者会議	5,300,000	4,000,000	1,300,000	
調査研究事業	8,500,000	8,500,000	0	幼児教育の改善・充実のための実践的調査研究含む
都道府県研修費補助	4,700,000	4,700,000	0	
幼児教育研究実践学会事業	5,500,000	2,000,000	3,500,000	印刷製本費・送迎バス
紀要費・記録事業	1,000,000	3,500,000	△ 2,500,000	
家庭・地域教育力向上事業費支出	(60,200,000)	(57,000,000)	(3,200,000)	
情報誌発行	56,000,000	56,000,000	0	
家庭教育力向上事業	4,200,000	1,000,000	3,200,000	H P 作成／保守
国際交流事業費支出	(2,000,000)	(2,000,000)	(0)	
OECDセミナー	1,000,000	1,000,000	0	
国際交流事業	1,000,000	1,000,000	0	
私幼時報発行事業支出	(14,000,000)	(15,000,000)	(△ 1,000,000)	
教員免許更新講習事業支出	(48,000,000)	(46,500,000)	(1,500,000)	
委員会開催事業費支出	(9,500,000)	(9,000,000)	(500,000)	
研究研修委員会	6,500,000	6,000,000	500,000	
調査広報委員会	3,000,000	3,000,000	0	
事業関係人件費支出	(22,720,000)	(22,400,000)	(320,000)	
事業関係事務費支出	(1,000,000)	(1,000,000)	(0)	
2 管理費	(13,280,000)	(13,500,000)	(△ 220,000)	
総務費支出	(5,600,000)	(5,900,000)	△ 300,000	
理事会	2,000,000	2,300,000	△ 300,000	
評議員会	1,800,000	1,800,000	0	
監事会	300,000	300,000	0	
諸会議費	1,500,000	1,500,000	0	正副理事長会等
人件費支出	(5,680,000)	(5,600,000)	(80,000)	
事務費支出	(2,000,000)	(2,000,000)	(0)	
事業活動支出計	[211,700,000]	[205,100,000]	[6,600,000]	
事業活動収支差額	[40,000]	[1,030,000]	[△ 990,000]	
II 投資活動収支の部				
投資活動収入の部				
投資活動収入計	[0]	[0]	[0]	
投資活動支出の部				
1 特定資産繰入支出	(1,800,000)	(1,800,000)	(0)	
退職給付引当資産繰入支出	1,800,000	1,800,000	0	
投資活動支出計	[1,800,000]	[1,800,000]	[0]	
投資活動収支差額	[△ 1,800,000]	[△ 1,800,000]	[0]	
III 予備費支出	[250,000]	[250,000]	[0]	
当期収支差額	[△ 2,010,000]	[△ 1,020,000]	[△ 990,000]	
前期繰越収支差額	[75,257,239]	[75,257,239]	[0]	
次期繰越収支差額	[73,247,239]	[74,237,239]	[△ 990,000]	

★私立幼稚園に関する情報を知りたいすべての方に向けたポータルサイト

「私立幼稚園.com」が リニューアルオープン <http://youchien.com>



この度、全日本私立幼稚園連合会、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構、全日本私立幼稚園PTA連合会のホームページを1つにした私立幼稚園のポータルサイト「私立幼稚園.com」を立ち上げました。

これまで、利用者によって訪問先のホームページが異なり、どのホームページに自分の欲しい情報が掲載されているかが分かりづらい状況でした。この度のリニューアルでは、利用者の目線に立ったホームページを目指して、まず3サイトに散らばっていた情報の整理や再配置を行い、利用者別、目的別に分類し直しました。また、最新の情報や利用頻度の高い情報、活用してほしい情報については適宜トップページに見やすく配置いたします。

全日私幼連のホームページではこれまで会員のページへの閲覧にはパスワードを設定しておりましたが、パスワードがあることで利用者のホームページ訪問への足を遠ざけ、迅速な情報発信の機能を果たせていない状況でした。「私立幼稚園.com」ではパスワード閲覧のエリアを縮小し、利用者がパスワードによる煩わしさがなく情報を入手できるようにいたしました。

あわせて、スマートフォン用のページも作成し、スマートフォンからいつでも閲覧できるようにいたしました。さらに、今回のリニューアルではこれまで以上にセキュリティレベルを高くしてホームページの改ざんやウイルス感染などの対策を強化し、利用者が安心して訪問できるようにいたしました。

なお、情報特急便は引き続き継続して配信してまいりますので、これまでご登録いただいたアドレスへの配信は引き続き行います。まだご登録がお済みでない加盟園の皆様におかれましては、新規のご登録もよろしくお願いいたします。

(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 調査広報委員会



新刊 アイデアいっぱい!
**季節&行事の
製作あそび**

季節を感じて
作って楽しむ!

ポット編集部 編
定価1,944円(税込)
26×21cm/96ページ
発行・発売 チャイルド本社

こいのぼり製作をはじめ、七夕、いも掘り、作品展、クリスマスなど、幼稚園や保育園で欠かせない、季節と行事の楽しい製作のアイデアがいっぱい!
製作活動の目安となる年齢表示付きです。

日本私立学校振興・共済事業団からのお知らせ

私学事業団では、私学共済制度として 3つの事業を行っています

- ① 短期給付事業…加入者や被扶養者が、病気、ケガをしたとき、結婚・出産・死亡・休業・災害などに対し、給付を行っています（健康保険）。
- ② 長期給付事業…加入者が一定の年齢になったとき・障害の状態になったとき・死亡したときなどに、年金や一時金が支給されます（公的年金）。
- ③ 福 祉 事 業…加入者や被扶養者の福祉の向上を図るため、健康の保持増進のための事業、各地のガーデンパレスや宿泊所等の運営、積立貯金、積立共済年金、共済定期保険、資金の貸付けなどを行っています（福利厚生）。

私学共済事務担当者連絡会を、年2回全国で開催しています

事務担当者の皆さまに、私学共済制度の事務手続き等に関する最新の情報をお知らせし、業務を円滑に行うための一助とすることを目的としています。また、日頃の業務に関する質問等にもお答えします。

☆平成27年度第1回私学共済事務担当者連絡会開催のご案内は、平成27年4月分掛金納付通知書に同封し、5月中旬に送付します。皆さまのご出席をお待ちしています。

また、加入者の皆さまに私学共済事業をご理解いただけるよう、私学共済直営施設の各ガーデンパレス共済業務課では、加入者向け説明会を実施しています。お気軽にご参加ください。

説明会の日時・開催地等は、各ブロック誌や下記の共済業務課又は私学共済ホームページでご確認ください。

★札幌ガーデンパレス共済業務課	☎011 (222) 6234 (直通)
★仙台ガーデンパレス共済業務課	☎022 (299) 6231 (直通)
★東京ガーデンパレス共済業務課	☎03 (3812) 2577 (直通)
★名古屋ガーデンパレス共済業務課	☎052 (957) 1388 (直通)
★大阪ガーデンパレス共済業務課	☎06 (6393) 9701 (直通)
★広島ガーデンパレス共済業務課	☎082 (262) 1134 (直通)
★福岡ガーデンパレス共済業務課	☎092 (752) 0651 (直通)

日本私立学校振興・共済事業団
広報相談センター 相談班

〒113-8441 東京都文京区湯島1-7-5
☎ 03 (3813) 5321 (代表)
FAX 03 (3813) 1081

幼児教育における学びを支える リーダーシップの育成

3月17日
東京大学

3月17日、東京大学教育学部赤門総合研究棟において、東京大学幼児教育研究会主催、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構共催による乳幼児保育実践政策学シンポジウムが開催されました。

今回の開催は、2月22日に行われた乳幼児保育実践政策学シンポジウムの第2回目として行われ、ロンドン大学教育学研究所幼児児童発達教育センターのIram Siraj-Blatchford先生にご講演いただきました。

秋田喜代美東京大学大学院教授の開会挨拶の後、Blatchford先生より「幼児教育における学びを支えるリーダーシップの育成」をテーマにご講演いただきました。この講演では、英国において乳幼児教育保育における園でのリーダーシップやその研修の在り方等についてお話をいただきました。講演後、参加者より質疑応答が行われました。



▲ロンドン大学・Blatchford先生

最後に、田中雅道(公財)全日私幼研究機構理事長より閉会の挨拶があり、シンポジウムは終了しました。

(株)学研教育みらい 東京都品川区西五反田2-11-8
幼児教育事業部

お問い合わせは **0120-833-415**
フリーダイヤル

園ぴゅう太のメールサービス

サーバー二重化!

らくらくメール
園から保護者へらくらくメール送信!
組別・個別送信、既読確認もできます。
サーバー二重化で、いざという時も安心です。

スマホで

らくらくバスメール
スマートフォンでバスメールを送信!
大きなボタン表示で画面操作もらくらく。
タップするだけでメール送信できます。

ぜ〜んぶ学研に
おまかせ!!

心機一転!
リニューアル

オリジナル!
キャラクター
ロゴ

Flashで
動画!

らくらくホームページ
目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新
もお電話・FAXで対応します。
「お知らせ更新は園で…」というご要望にも
システム併用でご対応いたします。

伝え合う姿

～豊かな言葉の育ちを支える教師の役割～

高橋秀典 (慈愛幼稚園 理事長)

中西陽子 (杭瀬幼稚園 教諭)

瀧川光治 (大阪総合保育大学 准教授)

はじめに

尼崎市私立幼稚園連合会は昭和40年代から夏期宿泊研修や特別研究会を開催し交流・研究を進めて来ました。その後、時代の変遷に合わせ継続し、平成8年より研究部として各園より1名ずつ集まり、テーマに沿って研究を行い、成果をまとめてきました。

- 1、**建学の精神が違う私立幼稚園が集まる効果**
単独園では得られない多様な視点を知り、各園の保育に生かすことで参加園それぞれの保育の質の向上に繋がる。
- 2、**外部指導者の効果**
 - ・中立した立場で物事を見ることができる。
 - ・全体を見通すことができる。
 - ・「めあて」を持って終わることができる。
 - ・普段の保育の振り返りをし、その効果を解りやすく理論づけることができる。
 - ・継続した、縦断的な研究ができる。

2013年度の研究の趣旨

人は成長するにつれ、言葉によるコミュニケーションが少しずつ豊かになっていきます。そこで、3歳児で入園した子どもたちが卒園するまでに、幼稚園で先生や友だちと関わる中でどのように言葉が豊かに成長していくか、それを支える教師の援助はどういうものであるかを事例を通して分析していきたいと考えました。

そして、『3歳児、4歳児、5歳児と「伝え合う経験」を意識的に積み重ねていくための教師の役割は』という問いかけに、豊かな言葉の育ちという観点から事例を出し合い、瀧川先生から指導を受け、整理を行って行きました。

2013年度の研究経過 7月よりスタート(6回開催)

ステップ1 7月、9月

「伝え合う姿ってなんだろう」～子どもの「言葉」に着目し、研究委員のそれぞれの課題意識や事例を出し合いながら共通理解を深める。

ステップ2 10月～1月実践事例を出し合い、分析

- ① 各年齢の「伝え合う姿」が見られたエピソードを話し合い、共通理解を深める。

- ② 各自の実践記録をミクロな目で分析する。

ステップ3 3月

1年を通しての各年齢における「子どもの姿」と「教師の役割」を考える。

【実践事例】

事例1 (3歳児、9月)

・ 他児への関心が芽生え始めた3歳児の事例 (欠席についてのやりとり)



・ ★教師の役割

- ・ 一質問に答える
- ・ 一受容的な応答
- ・ 一子どもの思いをくみ取りながらの受容的な応答

事例1の考察

子どもについて	教師の役割について
<ul style="list-style-type: none"> ○4月からの生活の積み重ねから、子どもたちの成長が見られた。 ○以前に教師が名前を出してお祈りしている姿を見て射たことが、R君の言葉につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者が「そうだね...」笑顔でうなづくことが、みんなへの呼び掛けにつながった。 ○日頃の教師の言葉かけが伝わっている。 ○相手の言うことに耳を傾ける教師の姿が大切。

・3歳児は、先生との対話が大切。
・対話の中で他児に対する思いや優しさが芽生える。
・子どもの言葉を笑顔で受け止める事が大切。

事例2 (4歳児、9月)

・ 砂場遊びでの4歳児の事例 (砂場の山づくり、深い穴作り)



・ ★教師の役割

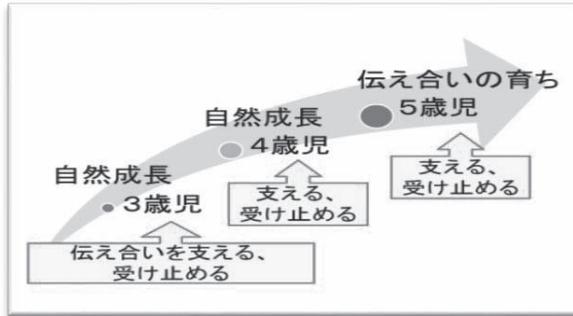
- ・ 一子どものしたことを面白いがる
- ・ 一「僕たち」という意識を引き出す言葉がけ
- ・ 一受容・共感、認める、受け止める

事例2の考察

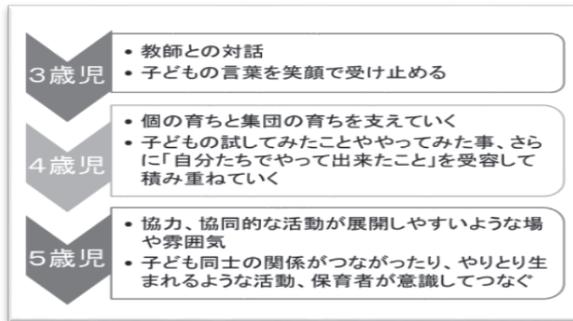
子どもについて	教師の役割について
<ul style="list-style-type: none"> ○山作りしてるのか、掘ることを楽しんでるのか? →3人は掘ることに集中し1人は山を作っていた。 ○「踏踏なく潰す」→片付けで潰すという習慣 ○掘ることで、一番底までいったから満足感がある →潰すことも楽しいと感じている。(=「潰す」ことも遊びの一環) 	<ul style="list-style-type: none"> ○先生をかこんで何人がかいる。Aと対話しながらB、C、Dと横のつながりが生まれている。 ○基本は、一人ひとりの子どもとの対話。 ○子どもの取り組み(こだわり)に興味深かかわり、したり、考えたりしたことを言語化させていく。

・一人の子の育ちではなく、周りにも含めて、どのように育てていくのかを考える。
・この子の、この場面という事をとらえ、子ども一人ひとりの興味・関心に寄り添い、受け止める事を意識する。
・子どもの試してみたことややってみた事、さらに「自分たちでやって出来たこと」を受容して積み重ねていく。

研究成果（１）—伝え合いの育ちのイメージ



研究の成果（２）—年齢ごとの教師の役割



研究成果（３）—各学年・各学期ごとの特徴

学年毎の1年間を3点から整理をした。

- ・「伝え合う姿を意識した子どもの姿」
- ・「伝え合うが育つための教師の役割」
- ・「育ってほしい姿」

3歳児の見通し

- 1学期：自分の思いを保育者に出す
- 2学期：保育者の仲立ちのうえで、自分の気持ちを相手に伝えようとする
- 3学期：相手の気持ちを知らうとする
自分の気持ちを相手に伝える

4歳児の見通し

- 1学期：友達の気持ちを知らうとする
自分の気持ちを相手に伝える
- 2学期：友達と遊ぶ中で、自分の思いを相手に伝える
- 3学期：1つの遊びを友達と一緒に会話しながら進める

5歳児の見通し

- 1学期：友達や教師に、自分の思いを言葉にして伝えようとする
- 2学期：様々な体験の中で、互いの思いや考えを出し合って交渉し目的を持って遊びを進める
- 3学期：
 - ・相手の話の内容を注意して聞き理解する
 - ・相手の思いや状況を考えて自分の思いや考えを出す
 - ・言葉を通して、友達や教師と心を通わせる

結論

研究成果のように学年毎の「伝え合う姿」が、5歳児の育ちを支え、そして5歳児の伝え合う姿の育ちが小学校に行ってから伝え合いにつながり、それらを支える・受け止める教師の役割が重要である。今回、研究会の中で年齢別にグループを作り事例を元に検討し合うことで、「伝え合う姿」の3・4・5歳児への指導方針が見えてきた。複数園が集まっての共同研究の良さだと考えられる。

【研究者の視点から】

小学校以上の教育の課題として「言語力の養成」があがっている。そのためには「自分の意思・気持ちの表現、コミュニケーション、思考のツールとしての言葉」といった言語の機能を「伝え合い」を中心として体験的に学ぶことが重要である。それを踏まえて『幼稚園教育要領』の領域「言葉」の「内容の取扱い」には、「(2) 幼児が自分の思いを言葉で伝えるとともに、教師や他の幼児などの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること」と記述されている。

「自分の思いを伝える」とは、「まずは教師へ伝える（受け止めてもらえた喜び、伝わった喜び）」が出发点であり、「他児（特定のお友達）に伝える」、さらに「他の子どもたちに伝える」ことが育っていく。ここでいう「思い」とは、自分の気持ちだけでなく、「気づきや考え（アイデア）」「やろうとしていること」なども含む。「興味を持って聞く、注意して聞く」とは、「聞きたい」という気持ち、「相手のことを知りたい」「相手の話を理解したい」という気持ちがあって、聞いた結果、「あっ、いっしょだ！」「あっ、そうか！」「やった！」「たのしい！」「うれしい！」という快の感情と結びつくことが大事。そのためには、教師や友達に受け止められる（受け止めてもらう）経験が積み重ねることが大事。このような土台があって、「言葉による伝え合い」が育ってくる。

今回の研究では、各場面でのミクロな視点での検討と、場面と場面をつないでみていくことで育ちを描き出すことによって、各学年・各学期の見通しが明らかになったことに意義がある。

「個別指導を取り入れた特別支援教育の試み」

熊本県 学校法人中九州学園 白山幼稚園 大野江里子

はじめに

本園では、姉妹園の出水幼稚園（昭和49年から特別支援教育をしている）や外部の療育機関、小学校との情報交換や連携等を大切にしながら、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、一人ひとりの幼児について細やかな支援ができるようにしている。

平成21年度からは、特別な支援が必要な幼児に対して、保護者が希望する場合は、保育終了後に月1回個別の時間を設け、担任教師が遊びを通して個々の幼児に応じた教育的支援をしている。

「個別の時間」とは

年少児以上の特別な支援が必要な幼児を対象に、通常の保育時間内では十分にできない教育的支援を担当教師が個別に行う。

外部の療育機関等の肩代わりをするのではなく、日々の園生活の中で観察したその幼児の興味や関心に着目し、担任教師と一緒に遊びながら、個々の幼児の園生活がより充実したものになるよう、楽しい雰囲気の中で一人ひとりの幼児に必要なと思われる教育的支援を1対1で行うものである。

・実施方法

- 日時： 5～7月、10～12月、1～2月の各月1回（年5～6回）
担任教師と保護者との相談の上決めた日の保育後20～30分
- 場所： 幼稚園 帰りの通園バスは利用せず、保護者に迎えに来ていただく。
- 活動内容： 運動遊び、絵本読み聞かせ、製作あそび、お絵かき、楽器遊び、粘土遊びなど

運動遊び



絵本読み聞かせ



製作遊び



お絵かき



楽器遊び

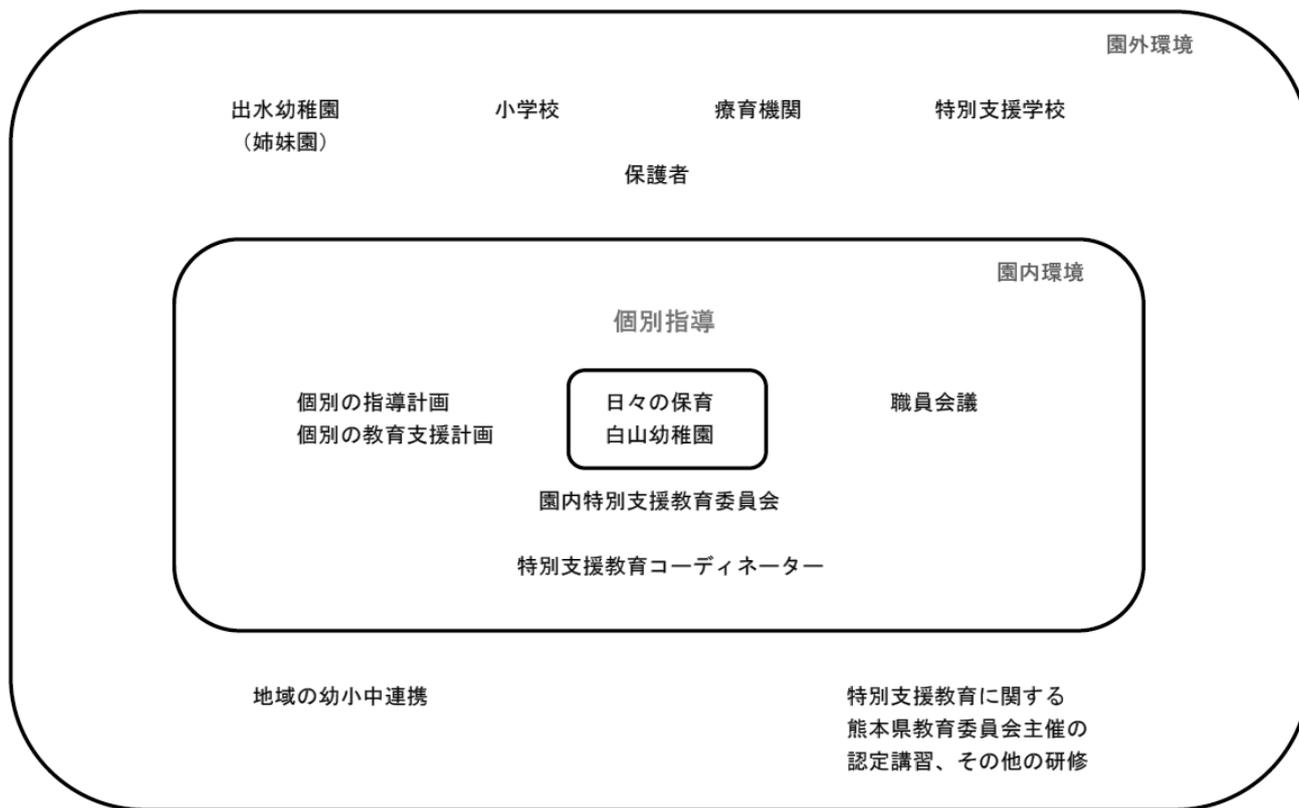


- 活動日： お迎え時に活動内容や幼児の様子を保護者に伝えたり、家庭での様子を聞いたりする。
- 後日： 個別の時間の記録用紙をやりとりし、担任と園長、保護者で共通理解をはかる

まとめ

- ・日々の園生活の中で、個別に対応することの大切さや必要性を感じても、集団活動の中では、一人ひとりの幼児にかかわる時間が十分にあるとは言えない。「個別の時間」での一人ひとりのニーズに応じた活動の中では、担任教師と幼児がゆっくりとかかわることができ、苦手なことに取り組み、できたことを一緒に喜んだり、興味があることにじっくり取り組み、満足感を感じたりすることで信頼関係がより深められ、教師も新しい気づきや今後の見通しなどをもつことができる。
- ・保護者に対して、幼児の様子を伝えるだけではなく、保護者の悩みをゆっくりと聞いたり、幼児の成長とともに喜んだり、家庭や療育機関での様子を教えていただくなど、情報交換や共通理解をすることができている。
- ・「個別の時間」の活動内容や日程、幼児の様子、保護者の様子について、保育終了後や園内の特別支援教育委員会などで報告や相談を行い、教師間で共通理解できるようにしている。
- ・前年度以前も個別の時間をしてきた幼児については、これまでの活動の様子について担当教師との連携がとても大切である。今後も担任教師だけではなく、園全体で一人ひとりの幼児の幼稚園生活がより充実したものになるよう取り組んでいきたい。

本園の特別支援教育を取り巻く環境



ビオトープから発展する保育実践

～センス・オブ・ワンダーを育むために～

○福江 國孝・福江 理恵（清和幼稚園）

○主題設定の理由

本園の教育目標の一つに「恵まれた自然環境を生かし、明るく健康な身体を育てる」とあり、幼児期に豊富な自然環境の中で、その美しさや不思議さに驚き、感動したり、身近な生き物や植物に親しむ事で、様々な命の大切さに気づき感謝する心や思いやりを育むと考え私たちは日ごろから園内の自然を生かした保育に取り組んできました。しかし、平成23年度の学校評価の保護者アンケートの結果「もっともっと裏山で遊びたかったといっています」という意見があり、改めて本園の自然を見直すことにし、自然と共存した保育の中で、子どもたちの不思議に思う心や感動する心、センス・オブ・ワンダーを培うためにはどのような保育が望ましいか考え今回の主題を設定した。

○主題への取り組みの手がかり

幼児自身がイメージ豊かに保育を展開していけるように年間を通して「テーマ」を設定しそれに沿った保育を展開する。

1、テーマの設定

月案製作時に幼児の育ちや活動を見通し「ねらい」や「内容」に即して1～2週間単位で季節や行事、社会の事象など幼児の興味や関心に考慮し「テーマ」を設定し、そこから子ども達が共通のイメージの中で

活動し、昨日から今日、そして明日へと日々の保育内容につながりがあるよう更に細かく週案を製作していく。より具体的に細かい内容を計画し、内容が5領域を踏まえた総合的なねらいをもった活動を展開していく。

2、コーナー活動

クラス全体で一つの活動を展開する保育だけでなく、自由に選択する遊びとしてコーナー活動を設定する。このコーナーは週のテーマに沿った教師の意図やねらいを持った遊びを展開する。主として一人又は数人で関わる数遊び・言葉遊び・ゲーム遊び等遊び方を工夫し、担任が手作りで設定するため幼児の実態と教師の思いをうまく合わせることができ、少人数の遊びの場であるため一人ひとりの考えや理解度、友達との関係がよく把握できる。

また、幼児の発想なども取り入れやすく環境の再構成等細かい対応もでき、クラス全体の活動では行いづらい活動を補うことができる。



3、保護者アンケート

学校評価を行う際に研究テーマに関する内容について保護者にアンケートを取ることで園側の思いだけでなく子ども達の育ちを保護者がどのように感じているかを知り、保育計画を見直す手立てとして意見を参考にする。

4、園内研修

教師間の共通理解のため各クラスの実践研究した事例を報告しあい、意見交換をし、評価か反省をすることによって新たな発見をし刺激を受けることも多く教師自身の技術・意識を高めるための研究の場とする。



5、研究の結果と今後に向けた改善点

園内の自然を見直すことで改めて当たり前と思いがちであった環境の素晴らしさに気付いた。子どもたちの自然環境への興味、関心は毎日の保育を基盤とした活動から発展し、①「自然を感じる」②「自然を活動や遊びに使う」③「自然について考える」といった3つの流れが広がり、深まり、繋がっていくことが重要であることを再認識した。又、自然の美しさ、命の尊さを感じ取る感覚は、五感を十分に使った自然体験により子どもたちの心に育まれ、そして身近な自然に感謝する心も自ずと育っていくことが強く感じられた。自然は私たち人間

の方で意識し付き合おうとしなければ、決して自然の方からは人間の都合を考えてはくれないというごく当たり前のことを深く考えさせられ、これは幼児と保育者との関係に通ずるものであることがよく解った。

今後の課題として、当園では幼稚園の恒例行事（運動会、生活発表会など）にも研究テーマを反映させる努力を行っているが、どうしても取り組みたい保育よりやらなければならない行事によって中断を余儀なくされてしまう現状に対し、職員全員で恒例行事の在り方を常に検討し、柔軟に取り組む必要がある。又、子どもの気づきや驚き・思いに共感し、好奇心や創造性を養う援助が出来るためには、保育者自身の感性がより豊かである必要があり、幼児には感じる「目には見えないが存在するもの」（光・風 etc）を感じる力を常日頃から研ぎ澄ませる努力・訓練が必要であると思った。

異年齢保育、はじめました。

二木 あずさ (はまようちえん) 大野 更紗 (はまようちえん)



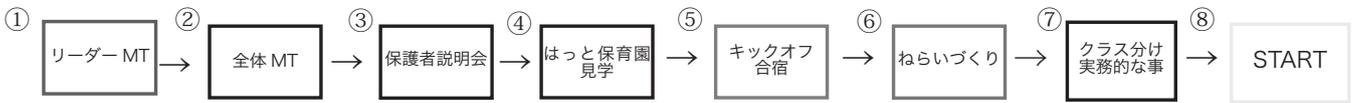
異年齢クラスが生まれたワケ

少子化や核家族化に伴い子どもたち同士の多様な人間関係が著しく減衰している。地域コミュニティの崩壊や子どもだけで「群れ」になれる遊び場の減少により、はまようのある町でも幼稚園や保育所でなければ多様な人間関係を紡げなくなってきている。

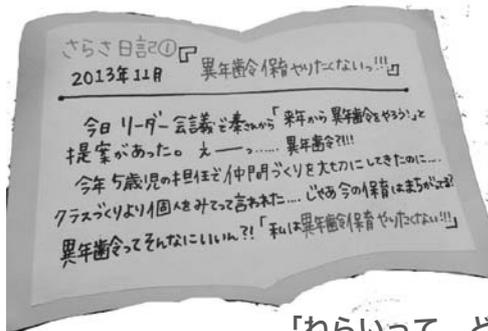
今年度より私たちは、子どもたちの人間関係がより豊かになるような「環境」として、異年齢保育を始めることにした。毎日の生活ペースを異年齢で過ごすことによって多様な関係が生まれ、そこから子どもたちが、より自分をたいせつな存在として肯定し、ものごとに主体的に関わる人に育つことを期待している。今年度まずは、4、5歳児混合(次年度より3、4、5歳児混合の予定)で始めた異年齢保育を、私たちがどのように導入・実践していったのかを時系列でドキュメンテーションし省察したものを発表する。

- 【目的】 じぶんが好き、人が好き、生きることが楽しい。
- 【ねらい】 一人ひとりの子どもがじぶんの「居場所」を見つけ、毎日を意欲的に生きること。
- 【コンセプト】 わたしになる。ぼくになる。もっと。

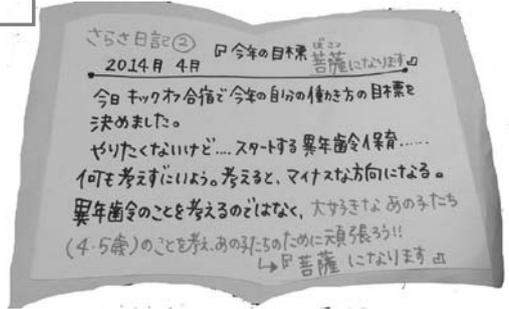
異年齢保育導入、全体の流れ



① リーダーMT



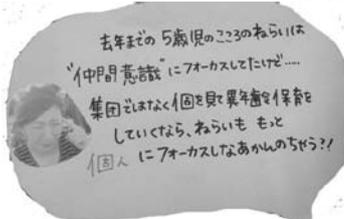
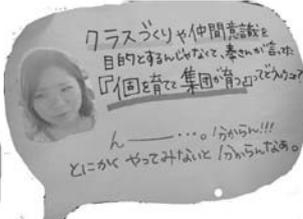
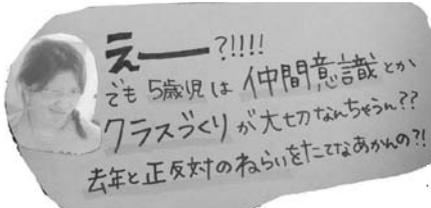
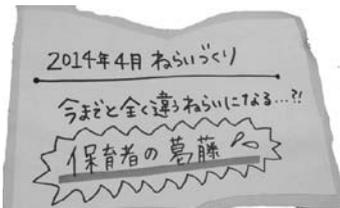
⑤ キックオフ合宿



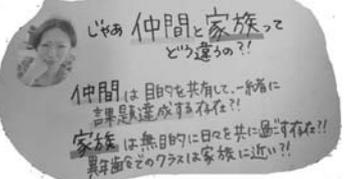
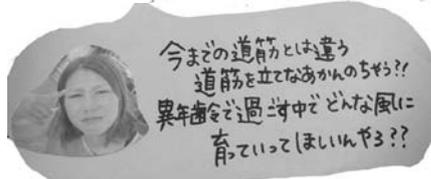
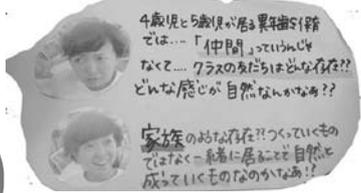
「まあえっか やってみよう」

「ねらいって どうなるの?」

⑥ ねらいづくり

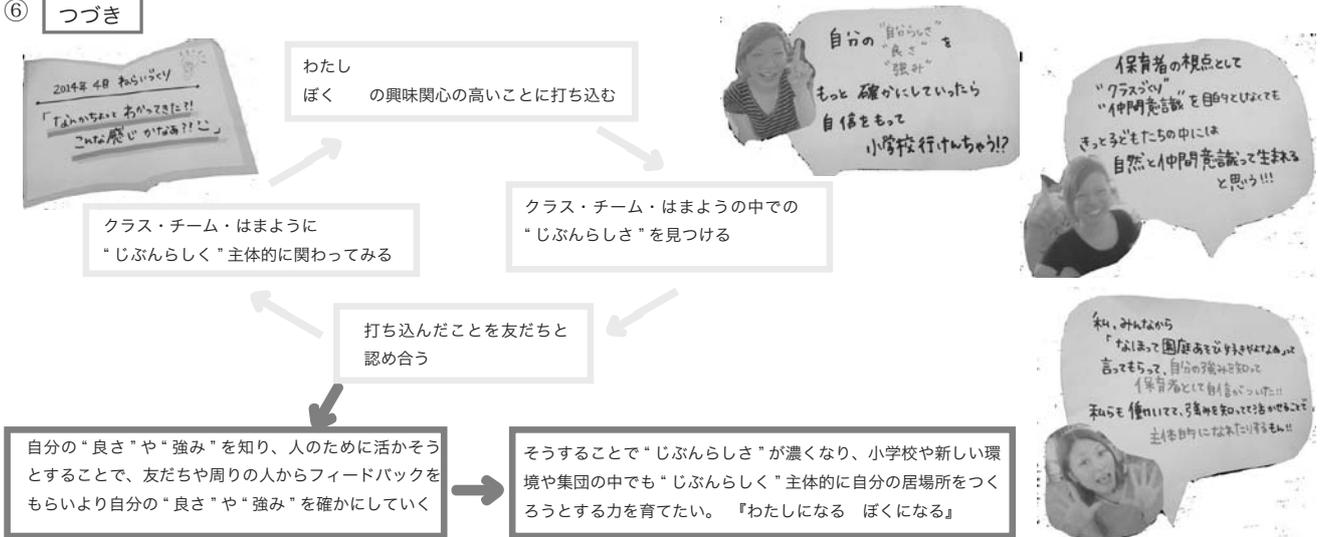


保育者の葛藤

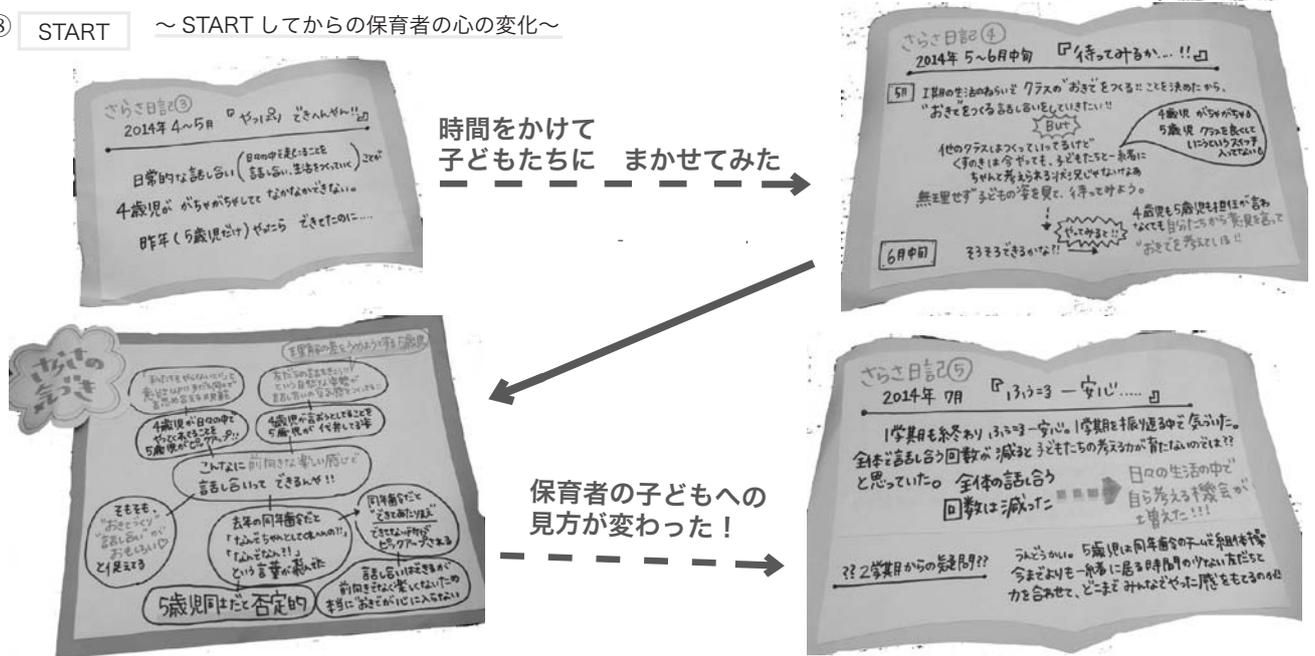


次ページに つづく...

⑥ つづき



⑧ START ～START してからの保育者の心の変化～



考察

○異年齢保育をはじめて15週間。まず、私たちが感じたことは、子どもたちや保育者にも今までになかったような葛藤や考える機会が自然と湧き起こっていることである。しかも、葛藤の種類が広がり豊かになっていることに気付いた。

例えば・・・

- ・年中が年長と生活したことで感じる、自分の立ち位置の葛藤。
- ・年長が年中にどのようにして自分の思いが伝えようかと考える葛藤。 など

○これまで、生活を考えるきっかけづくりや課題の共有の場として、公式な話し合いの場（サークルタイム）を意図的に仕掛けてきた。異年齢クラスになったことで、この話し合いの場が減少しているのが現状である。しかし、異年齢クラスの生活では、一人ひとりの生活ベース・発達が多様であるからこそ、葛藤や考える機会が日々『非公式に』起こり、その一つひとつの場面で、子どもたちは主体的に考えようとしているように感じる。

○年長チーム担当の保育者は、年長児と過ごす時間が長く、クラスの中でも無意識に年長児に目を向けていると感じている。年中のことを丁寧にみることでいいのではないかとという反省もあげられた。そのいっぽうで、年中チーム担当の保育者は、クラスの子どもの様子や姿を共有することが自然と増えたという。担任のみが、クラスの子どものことを見ているのではなく、様々な保育者が子どもたちを見ていることで、はまようちえんが目指している『みんながみんなを見る保育』に近づいていくのではないかと実感している。

○子どもたちから内発的に生まれた課題に対して、現在は発生した時にすぐ話し合いながら進めている状況である。誰もが初めての体験である異年齢保育の、楽しさ、学び、難しさをこれからもチームはまようの保育者同士で話し合いながら、進めていきたい。そのために実践していることは・・・

- ・月1回の保育MT
- ・日々のEMT
- ・先生同士のコミュニケーション など

○現在の異年齢保育は4・5歳のクラスだが、来年度からは、3・4・5歳のクラスとする予定である。幼稚園に初めて入園する不安を抱えた3歳児が4・5歳児と一緒に生活することで、どのように幼稚園に慣れ、遊んでいき、自分を表現していくのか。また、4・5歳児にもどのような葛藤や学びが新たに生まれるのかを2学期からも見ていきたい。

「テーマ：3歳児の遊びを発展させていくちから」

○川崎陽子（西鎌倉幼稚園教諭）

萩生田亜季（西鎌倉幼稚園教諭）、亀山勝平（西鎌倉幼稚園教諭）

池田万里菜（西鎌倉幼稚園教諭）、菅沼菜摘（西鎌倉幼稚園教諭）

保育室の形を大きく変えた昨年度。それがきっかけとなり、子ども達の充実した園生活とは何か、を見直すこととなった。特に3歳児、初めての幼稚園生活を過ごす上で、何を大切に、何を経験させてあげたいか、そして、どんな成長を願うのか、その為には今までの保育をどう見直すかを考えた。他園の見学や職員間での日々の振り返りの中から、自ら選ぶ遊びの時間の保障と環境の充実を意識し保育を実践した。そこから、見えてきた子ども達の姿（成長）、遊びの発展や深まり、そして課題をまとめていく。

1. 3歳児にとって

3歳児にとって安心して幼稚園生活を送れるためにはどのような環境設定が大切か。

まずは幼稚園生活を楽しんで欲しい。その中で自分のやってみたい遊びを見つけ、安心してのびのびと遊べる。そのような姿であって欲しいと願っている。そのような子どもたちになるには、どのような一年を過ごしたらよいか。そこで、すぐに遊べるような環境設定としてその時期にあった、楽しめるコーナー遊びを考えていくことにした。

2. 遊びの時間を充実させるために見直したこと

自分のしたい事にじっくりと取り掛かる時間を確保するため、今までの保育の見直しを行った。

①支度の簡略化

遊びの時間を充実させるために、園で年長から年少まで同じように行っている「支度」。それを見直すこととした。

- ・タオルをタオルかけにかける→机の上に置いてあるかごに入れるだけにする。
- ・ノートの日付にはんこを押す→ノートは必要な時以外、持ってこないようにした。はんこを押す習慣をつけてもらいたい思いもあるので、紙を置いておき、遊び感覚ではんこを押す。

支度が少し簡略化されたことにより、「遊びたい！」という思いで登園する3才児がその気持ちのまま、すぐに遊ぶ事が出来る。結果、子どもたちの遊びへの意欲を高めたように思う。

②クラスでのお集まり

以前は10時過ぎにお集まりをし、クラスでの時間を大切に過ごしてきた。→学年全体で過ごす時間を長くし、子どもたちが遊びを自分で選択できるような時間を確保した。そのことによって、他のクラスのお友だちとも一緒に遊べたり、仲良くなった。また、一つの遊びにじっくりと取り組めるようになった。



3-1. 絵具・のりで遊んでみよう(4月～5月)

ダンボールや紙に好きなだけ絵の具やのりを塗って遊べるようにコーナーとして置いておいた。筆ではなく手や足で塗り、ダイナミックに楽しむことで気持ちも解放されていくようだった。

絵の具・のりという同じもので遊び、楽しさを共有し、友だち関係ができてきた。また、コーナーという自分の心地よい居場所を見つけたようだ。やりたい子はいつでも、いつまでも出来るような環境を設定しておくことがよかったようだ。



3-2. 遊びを充実させるための環境設定

すぐに手に取れる遊びがあることで安心する子どもたち。その場で広がっていきそうな遊びを話し合い、素材を準備しておいた。

○青空の下で粘土をしちゃおう！

室内にこだわらずいつでも粘土ができる環境。

○風の子広場で自然と遊ぼう！

自然を取り入れた遊びが出来るような環境。

季節やその時の子どもたちの姿を読み取り、遊びがより充実するために必要なものを考えた。

4. 遊びを自ら発展していくようになった！

(10月中旬～)

さまざまなリサイクル品の素材に触れて欲しいと、楽器作りを行った。演奏できる場も設けた。

(コーナーの遊びとして設けるが、ある一定の期間の中で全員が経験できるよう投げかけていく) 次第に子どもたちから出てきた声。

☆「ステージは？」

☆「コンサートって暗いんだよ」



そして、このような姿も見られた！

☆椅子を並べ、前に立って合奏。トライアングルの棒を持って指揮者の真似をしている子。

☆お客様を呼び込む役をする子。



いつでも「やりたい」を形にできるように学年で連携を取って、ゆとりをもった生活をすることを心掛けた。

年長中の姿に憧れ、見ているだけでなく自分たちでも実行したくなる気持ちや遊びを自由な発想で広げていく力が身についていた。

これまでに、友だち同士で多くのことを経験し、成功する喜び、一緒に取り組む楽しさをたくさん感じていたことで、様々な活動への意欲に繋がったと考える。

5. 担任たちの課題

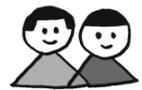
- ・子どもたちの安全の確保のため、子どもの姿を丁寧に読み取るために、今まで以上に担任同士の連携をしっかりと取る必要がある。
- ・コーナー以外で遊んでいる子の遊びを理解し、しっかり関わってあげているか。
- ・学年で共通した時間を過ごしていることで、クラスの個性が光る活動をどこまで設ける必要があるか。
- ・苦手なことを含め、様々な経験を皆が出来るよう、子どもの様子を把握し、声をかけていく必要がある。

これらの課題にしっかりと向き合い、学年での話し合いや情報交換を密に行っている。

6. 考察(おわりに)

このような保育を通して、その時期の子どもたちがどのような経験をする必要があるのか、その為にはどのような生活を保障すべきか、改めて考えることとなった。子どもたちの力を最大限に引き出すためにも、保育者自身も子どもたちの一瞬一瞬の姿や言葉を丁寧に読み取り、それに合った言葉がけや環境を設定していく大切さを感じた。

また、「学年」、「クラス」という大きな単位で子どもたちを見がちだが、一人ひとりの時間の流れがあること、その個を活かせる保育をしていきたいと思っている。



第6回

- テーマ 「子どもの『今』に寄り添い、子どもと『未来』をきずく」
～保育臨床の視点を大切に、保育の質を高めよう～

幼児教育

●趣旨 すべての幼児教育の現場の実践を豊かにし、幼児教育の有用性を社会に示すことで、子どもの育ちが最優先される社会が実現されることを目指して、平成22年度、幼児教育実践学会がスタートしました。

本学会では、3つの柱により学会運営を行います。

- ①発表者には、実践を踏まえた研究発表を行い、できるだけ映像等を使用する
- ②参加者は、生きた研修のメイキングの仕方を学び、地区・都道府県から各園に周知する
- ③保育実践者と研究者が共に育ちあう

実践学会

●期日 平成 27 年8月 18 日(火)・19 日(水)

●共催 (公社) 福島県私立幼稚園連合会

第3回福島県私立幼稚園教員研修大会(郡山大会)

●協力 全日本私立幼稚園連合会

●会場 福島県郡山市・郡山女子大学(福島県郡山市開成三丁目 25 番 2 号)

●参加資格 幼児教育関係者

●定員 1,300 人

●参加費 4,500 円

●問い合わせ先(参加の方法、研究発表の方法、学会内容など)

公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25 私学会館別館4階

TEL:03-3237-1957 FAX:03-3263-7038

大会の流れ(予定)/大会期日:平成 27 年8月 18 日(火)・19 日(水)

●第 1 日目 平成 27 年8月 18 日(火)

【会場】郡山女子大学・建学記念講堂

- 12:30 — 開会式、表彰式 福島の子どもの今とこれからの寄り添う
～大震災・原発事故という未曾有の状況の中で～
- 13:15 — シンポジウムⅠ → パネラー 生駒 恭子(福島県いわき市・ほうとく幼稚園副園長)
菊池信太郎(医療法人仁寿会 菊池記念こども保健医学研究所所長)
コーディネーター 東 重満((公財)全日私幼研究機構 縦断研究チーム座長)
- 14:45 — 休憩
- 15:15 — シンポジウムⅡ → 自園の事例研究の在り方～日常のケース会議から～
講師 岡 健(大妻女子大学教授)
パネラー: 保育者数名
- 17:00 — 第1日目 閉会

17:30～19:00 — 保育者と研究者の交流懇親会 ※参加希望者のみ

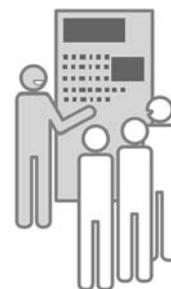


※昼食のご用意はありません。各自でお取りください。
※「表彰式」では、本財団の平成 26 年度優秀教員表彰者を表彰します。
※進行の都合上、シンポジウム等の開始時刻が前後することがあります。あらかじめご了承ください。

●第 2 日目 平成 27 年8月 19 日(水)

【会場】郡山女子大学

- 9:30 — 口頭発表【Ⅰ】(90 分)
11:00 — ポスター発表(120 分)
|
昼食休憩
|
13:00 — 口頭発表【Ⅱ】(90 分)
14:30 — 閉会



※昼食弁当の予約を受け付けます。
※終了後は各自解散となります。

園・個人・研究者で研究発表を希望される方へ

○園・個人・研究者での研究発表は、ポスター発表に限らせて頂きます。

参加を希望される方へ

第 6 回学会への参加申し込み期間は、平成 27 年 5 月 11 日 (月) までです

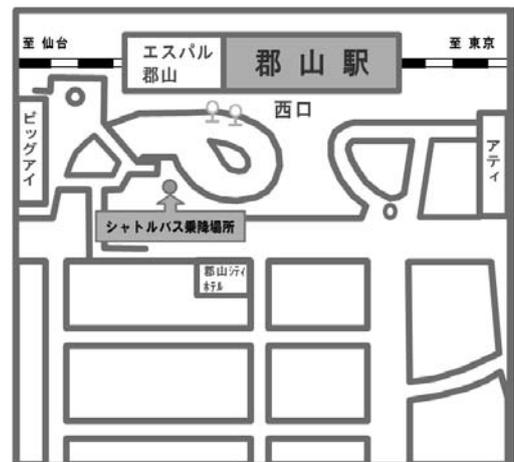
- 参加を希望される方は、参加申込書の提出が必要です。当日参加は受け付けません。
- 参加者は「参加申込書」に必要事項を記入し、平成 27 年 5 月 11 日 (月) までに、所属の都道府県団体事務局の指示に基づいて、都道府県団体事務局へ「参加申込書」を送付してください。
- 後日、各参加者へ直接「会場までの地図」「学会参加証」等を送付させていただきます。

- 参加費は 4,500 円です。「参加費」は返金いたしません（代理参加は可）
- 受付は 18 日（火）午前 11 時 30 分から行います。18 日はご昼食の用意がございませんので、各自でお取りいただくことになります。
- 18 日は参加希望者による「保育者と研究者の交流懇親会」を開催します（立食／交流懇親会費 3,000 円）
- 19 日の昼食につきましては、事前に予約をした方に限りお弁当をご用意いたします。（お弁当・お茶付き 1,000 円）当日受付はいたしませんのであらかじめご了承ください。
- 参加費等は「参加申込書」と同様に、都道府県団体事務局の指示に基づいて、所属の都道府県団体事務局へ送金してください。
- 普通会员または賛助会員以外の参加者については、本財団へ申込書をお送りください。参加費の送金方法については追ってご連絡いたします。
 - *普通会员は、都道府県私立幼稚園団体に加盟している私立幼稚園です。
 - *賛助会員は、本機構の目的に賛同し、その事業に協力する個人、団体又は企業です。
- 定員に達し次第、締め切らせて頂きますのでご了承ください。
- 宿泊施設・交通チケットの予約は、参加者各自でご予約等のご対応をお願いします。

会場までのアクセス

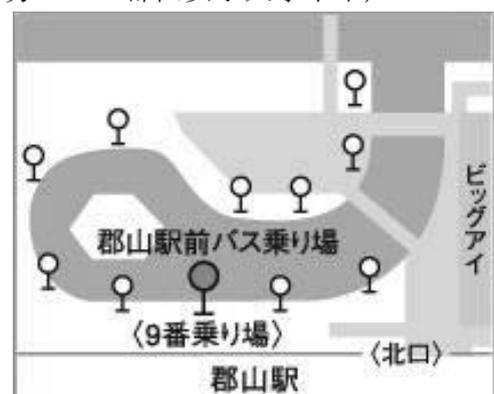
○シャトルバス（郡山駅⇄郡山女子大学）

- ・幼児教育実践学会の開催期間、郡山駅と郡山女子大学を往復するシャトルバスの運行をいたします。
- ・15 分間隔で運行いたしますが、時間帯によっては交通事情や参加者の集中により、すぐにご乗車いただけない場合もございます。
- ・シャトルバスの運行時間以外でのご移動につきましては、他の交通機関をご利用くださいますようお願い申し上げます。



○その他の交通機関

- ・タクシー（郡山駅より約 15 分 ※混雑時は 15 分以上かかります）
- ・福島交通 路線バス（郡山駅前 9 番線乗り場より約 30 分 → 郡山女子大学下車）
 - 市役所経由大槻行き
 - 市役所経由新池下団地行き
 - 市役所経由希望ヶ丘行き
 - 市役所経由静団地行き
 - 市役所・柴宮経由運転免許センター行き
 - あすなろ循環（市役所経由）



参加申込書

◆参加者 1 (または責任者) 連絡先

幼稚園名・勤務先		都道府県名		交流懇親会 参加する <input type="checkbox"/>
ふりがな		役職名		19日昼食 希望する <input type="checkbox"/>
氏名	(男・女)			
連絡先住所	1. 幼稚園・勤務先 2. 自宅 (いずれかに○印をお付けください)			
	〒			
電話番号		メール		
生年月日	昭和 平成	年	月	日

※傷害保険加入のためご記入ください。
すべて年号(元号)でご記入ください。

◆本学会で「すでに発表の申込を複数名でされている」及び「1園で複数の参加者を希望する」場合は、次の「参加者2～5 (または共同発表者)」欄に必要事項をお書きください。

参加者 2	ふりがな		幼稚園・ 勤務先名		交流懇親会 参加する <input type="checkbox"/>
	氏名	(男・女)			
	生年月日	昭和・平成	年	月	日
				19日昼食 (お弁当とお茶)	希望する <input type="checkbox"/>
参加者 3	ふりがな		幼稚園・ 勤務先名		交流懇親会 参加する <input type="checkbox"/>
	氏名	(男・女)			
	生年月日	昭和・平成	年	月	日
				19日昼食 (お弁当とお茶)	希望する <input type="checkbox"/>
参加者 4	ふりがな		幼稚園・ 勤務先名		交流懇親会 参加する <input type="checkbox"/>
	氏名	(男・女)			
	生年月日	昭和・平成	年	月	日
				19日昼食 (お弁当とお茶)	希望する <input type="checkbox"/>
参加者 5	ふりがな		幼稚園・ 勤務先名		交流懇親会 参加する <input type="checkbox"/>
	氏名	(男・女)			
	生年月日	昭和・平成	年	月	日
				19日昼食 (お弁当とお茶)	希望する <input type="checkbox"/>

※生年月日は傷害保険加入のためご記入ください。すべて年号(元号)でご記入ください。

※交流懇親会、19日の昼食(お弁当とお茶)については希望される方のみチェックを入れてください。

※お弁当の当日受付はいたしません。

参加申込 合計額

学会参加 4,500 円 (全参加者)	×	名	=	円	
保育者と研究者の交流懇親会 3,000 円	×	名	=	円	※参加者のみ
昼食 (お弁当とお茶) 1,000 円	×	名	=	円	※希望者のみ
合計				円	

※本参加申込書に記載された個人情報は、本学会の参加者名簿や参加受付証等発送など、本学会の運営・管理の目的に限り使用します。また、本学会の当日大会資料に「氏名」「都道府県名」「幼稚園・勤務先」を掲載いたします。

※本参加申込書に記載いただきました連絡先(住所)に「学会参加証」等を送付いたします。

**学会参加申込書：平成27年5月11日(月)までに
本書を所属の都道府県団体私幼事務局へ送付してください**

こどもがまんなかの新制度へ

いよいよ新制度が始まりました。4月現在、栃木県内の私立幼稚園184園は、6割強が私学助成の幼稚園、1割が施設型給付の幼稚園、3割弱が幼保連携型認定こども園または幼稚園型認定こども園となっています。

当初半分の幼稚園が新制度に移行する意思を示していたこともあり、昨年度の振興活動は、県政に対しては「運営費補助金」の増額を要望し、新制度への対応のために各市町に対しては「利用者負担額」の階層を認定の別なく同一階層区分として設計するよう要望するという二本立てで行ってきました。

結果、運営費補助金は県単補助の増額はなかったものの国の地方交付税分として園児1人あたり2,200円増額という回答が得られました。利用者負担額については、宇都宮市をはじめ複数の市町から、同一階層区分の料金体系が示され、1号認定>2号認定となる矛盾が解消されるとともに、保護者にとっても分かりやすい料金制度となりました。平成27年度は、すべての市町で同一階層区分での料金体系が実現されるよう、働きかけていく予定です。

移行準備を進めていく中で、別の問題も浮上してきました。特別支援教育費補助金について、これまで補助金の対象となっていたこどもが2号認定を受けると補助対象から外されてしまうという問題です。

新制度の目的は、すべての子どもに質の高い教育と保育を提供することなのだから、幼稚園・保育園・認定こども園の別なく、また認定の別なく、真の意味で「こどもがまんなか」の制度となるよう、国レベルで制度の見直し、充実が図られるよう期待したいと思います。

((一社) 栃木県幼稚園連合会常任理事、振興委員長、益子町・たから幼稚園／馬場章信)

全国一少ない私立幼稚園数の徳島県私立幼稚園協会の取り組み

徳島県は、県下に公立幼稚園137園が各小学校と共に存在する中、私立幼稚園はわずか11園です。少ないながらも互いに連携し相互協力を図っています。

入園募集時期は毎年、地元新聞に合同園児募集を掲載し、一体感のある広報活動で私立幼稚園存在のアピールを強めています。

学校法人は今まで行政管轄が県であったため、県担当課との関係は密にあります。新制度では、市町自治体とのつながりを密にする必要があります。毎年徳島県私立幼稚園PTA連合会の活動として、各市町自治体へ「就園奨励費実施」の陳情をしていますが、未だに実施されていない自治体が多くある現状です。特に幼稚園・保育園共、私立が存在しない市町があり、私学への理解が少ないと感じています。

そのため各地域の子ども子育て会議には、私立幼稚園関係者が委員として意見を反映できるように、積極的に自治体に働きかけをし、会議への参画に努めています。

我が園は、私立として県下で初の幼保連携型認定こども園に平成26年度に移行しましたが、様々な課題にぶつかりました。特に広域入園においては、各自治体により実状が違い、共通理解や連携をすることに、労や時を多く費やす現状です。

親子の居住地がどこにあっても、子どもの教育・保育を受ける選択権が狭められることなく、子どものより良い成長を幼稚園が共に喜びあえることのできる新制度となりますようにと願っています。

(徳島県私立幼稚園協会書記、吉野川市・認定こども園めぐみ幼稚園めぐみ保育園／山賀杏子)

編集後記

お手もとにこの「私幼時報」が届くころ、春を告げる桜前線は、どの地域を北上しているのでしょうか。先生方の近くの桜は、春爛漫の香り漂う満開のころ？それとも春へのあこがれでいっぱい
の固い蕾のころでしょうか。桜はソメイヨシノに代表されますが、種類はなんと600種類もあるそうです。春の花と思いがちなのですが、10月から11月にかけて咲くものもあり、ずれていく開花の時期を考えると、日本のどこかで一年中、桜の花が咲いていることになります。

新しい年度になり、いよいよ「子ども子育て支援新制度」がスタートしました。それぞれの幼稚園、こども園で様々な方針を持たれ、進む方向を決められたことと思います。でも、多少形態は違えど、子どもが真ん中におり、その想いは同じ。子どもが幸せになる同じ道を歩んでいくと信じています。一年中、日本のどこかで咲いている桜のように、日本中の園が「サクラサク」……。満開の合格の通知が届くように願ってやみません。

(調査広報委員・高尾恵子)

平成27年度(第3回) 免許状更新講習の認定一覧

●必修領域「教職についての省察並びに子どもの変化、教育政策の動向及び学校の内外における連携協力についての理解に関する事項」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
東京都千代田区	幼稚園教諭を対象とし、「教職についての省察」「子どもの変化についての理解」「教育政策の動向についての理解」「学校の内外における連携協力についての理解」の4つの事項に関して、今日求められている幼稚園教育の課題を踏まえて、幼稚園教員が果たすべき役割について考察する。	神長美津子(國學院大學教授) 平田智久(十文字学園女子大学教授) 高橋かほる(聖徳大学教授) 安見克夫(東京成徳大学教授)	12時間	平成27年7月19日～平成27年7月20日	150人	平27-81340-00364号
神奈川県横浜市	幼児教育の現場において、現代的な社会の変化と幼児の不变的発達の間で多様なニーズが求められています。その中で現場保育者として、幼児教育の発達をいろいろな側面から捉え、①幼児理解と保育の質の向上、②遊びが学びの保育の展開、③行動や発達の気になる子の保育と保護者支援、について考えていきたい。	大豆生田 啓友(玉川大学教育学部乳幼児発達学准教授)	12時間	平成27年6月29日、平成27年7月13日、平成27年9月28日、平成27年10月19日、平成27年11月16日、平成27年12月7日	45人	平27-81340-00365号
愛知県名古屋	「教職についての省察」「子どもの変化についての理解」「教育政策の動向についての理解」「学校の内外における連携協力についての理解」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。	田中雅道(公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事長) 安達謙(公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 研究委員)	12時間	平成27年7月27日、平成27年8月10日	200人	平27-81340-00366号

●選択領域「教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
福島県福島市	幼稚園教諭を受講対象者とする。園内研修の再構築及び同僚性を深めることを目的とし、園としての保育の自己点検・自己評価の具体的な方法について理解を深め、園内研修での自己点検・自己評価の具体的な取り組みについて実践を通して考察し、さらに同僚性を深めていく具体的な方法について実践を通して現状と課題について考察し、より望ましい園内研修のあり方について学ぶ事を目的としている。	高橋 昇(仙台青葉学院短期大学非常勤講師)、 賀門 康博(郡山女子大学短期大学部非常勤講師)	6時間	平成27年6月27日	40人	平27-81340-53709号
神奈川県川崎市	①「義務教育及びその後の教育の基礎を培う」ことについてあらためて認識を深めるとともに、保育内容の展開・発展の基礎となる幼児期の子どもの発達理解について、具体的事例を上げながら考察していきます。②遊びを中心とした子どもの生活に大きな役割を果たす保育者自身の自発性、創造性を高める演習を取り入れて、保育者としての一層の資質向上を目指します。	神蔵 幸子(洗足こども短期大学幼児教育保育科教授)	6時間	平成27年5月20日、平成27年6月17日	100人	平27-81340-53710号
長野県長野市	幼児の音楽表現を「あそび」として成立させるための基本的な考え方を学び、「音楽大好き」という子どもたちの信楽を育むために保育者が身につけなければならない技術について考察する。また自ら音楽と向かい合うことで、実践的に「音楽表現」を学ぶ。	山崎 浩(清泉女学院短期大学幼児教育科准教授)	6時間	平成27年6月13日	70人	平27-81340-53711号
愛知県名古屋	幼児期の特性と幼稚園教育の役割/①幼稚園教育要領に示されている五領域の意味を考える。②幼児の主体的な活動と環境の構成について考える。③教師の役割について考える。	齋藤善郎(豊橋創造大学非常勤講師、林丘幼稚園理事長)	6時間	平成27年7月29日	200人	平27-81340-53712号
愛知県名古屋	保護者の理解とその対応/ ・さまざまな保護者の概観 ・保護者の性格の背景の理解 ・対応の方法と留意点 ・事例を通じた理解	川瀬正裕(金城学院大学人間科学部教授)	6時間	平成27年8月3日	200人	平27-81340-53713号

愛知県 名古屋市	幼児の生活習慣と幼児体育／近年、幼児の不規則な生活習慣が心身の発育・発達に影響を与えることが懸念され、子どもの体力・運動能力の低下の問題は、幼児期からの取り組みが重要であると着目されてきている。本講習では、幼児の生活習慣、体力・運動能力に関する現状と課題について理論的にアプローチしていく。また、幼児期に豊かな体力・運動能力を育ませるための運動遊びを実践を通して探求していく。	花井忠征（中部大学現代教育学部教授）	6時間	平成27年8月11日	200人	平27-81340-53714号
京都府 京都市	幼児教育の原点、幼児をとりまく環境への理解を深める。5月28日の講習では田中講師から幼児教育相談で留意すべき事項を聞き、定本講師から虐待と子どもの発達の相関を学ぶ。6月9日の講義では馬見塚講師から幼児期における親及び子どもへの支援のあり方について学び、また、河嶋講師から幼児教育の原点、保育者の留意すべきことを学ぶ。馬見塚講師はゲストスピーカーに位置付ける。	田中 雅道（公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長）、定本 ゆきこ（京都少年鑑別所、精神科医、龍谷大学非常勤講師）、河嶋 喜矩子（学校法人聖母女学院短期大学非常勤講師）	6時間	平成27年5月28日、平成27年6月9日	80人	平27-81340-53715号
京都府 京都市	午前中の講習では京都府児童福祉センター副院長門真一郎氏から、高機能障害のある児童に対する理解、支援の方法等について学ぶ。午後からの講習では浜幼稚園副理事長の奏賢志氏よりワークショップ形式により仲間づくりを学ぶことにより1対1の関わりから多数の人との関わりへと輪を広げていく経験をする中で、人と人との関わり方を理解し、今後の現場での応用に繋げていく。講師はゲストスピーカーとして活用し、田中雅道全日私立幼児教育研究機構理事長が関わっている。	田中 雅道（公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事長）	6時間	平成27年7月11日	80人	平27-81340-53716号
京都府 京都市	9月17日の講習会では安達講師から、幼児の理解を深めることにより保育の質を高めることを目指し、12月10日の講習でははじめに肥後講師から子育て支援に関する心理臨床について学ぶ。最後に田中講師からこの講習で学んだことを教育要領と関連させ、指導計画の立て方等について学ぶ。	安達 譲（公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構研修研究委員長）、肥後 功一（島根大学副学長）、田中 雅道（公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事長）	6時間	平成27年9月17日、平成27年12月10日	80人	平27-81340-53717号
広島県 広島市	・日本語を見直すことから、言葉の大切さについて学びを深める。 ・どんな環境でも、アイデア次第で子どもたちにわくわく感を与えられることを学ぶ。 ・遊びを通じて自然に親しむことの大切さを学ぶ。 ・ゲストスピーカーとして、アメリカ生まれの詩人・翻訳家のアサー・ピナードさんから日本語の言葉の大切さについて講演をいただく。竹内発達支援コーポレーション代表の竹内吉和さんに発達の凸凹についての基礎知識の理解等について講演いただく。	坂本 喜一郎（玉川大学教育学部乳幼児発達学科非常勤講師）、高田 憲治（広島女学院大学非常勤講師）、吉永 早苗（ノートルダム清心女子大学教授）、寺田 喜平（川崎医科大学小児科教授）、菊野 秀樹（比治山大学短期大学部幼児教育科教授）、出原 大（大阪大谷大学非常勤講師）、中丸 元良（比治山大学短期大学部非常勤講師）	12時間	平成27年8月3日～平成27年8月4日	100人	平27-81340-53718号

地震対策は お済みですか？

耐震補強実績
木造 1,800棟
非木造 3,500棟
達成

補助金が利用できます！

私立幼稚園施設整備費補助金（文部科学省）
申請により、要件を満たす建物の耐震工事
についての補助金

補助額 全体費用（設計＋工事）の

最大50%

耐震補強の専門スタッフが疑問にお応えします。

- 園児を地震から守るために！
- 園児の保護者が安心できるように！
- 建て替えまでの応急処置に！

外付け施工なので工事中も普段通りに使用可能

通風・採光・出入り
も今まで通り

公的機関の
技術評価取得

補助金対象工法



木造幼稚園



鉄筋コンクリート造 幼稚園

お問い合わせ、資料請求は



0120-260-220 (受付時間) 9:00~17:00

ウッドピタ

検索

株式会社ピタコラム
ウッドピタ事業本部

(株)ピタコラムは矢作建設工業(株)(東証一部上場)の100%子会社です。